

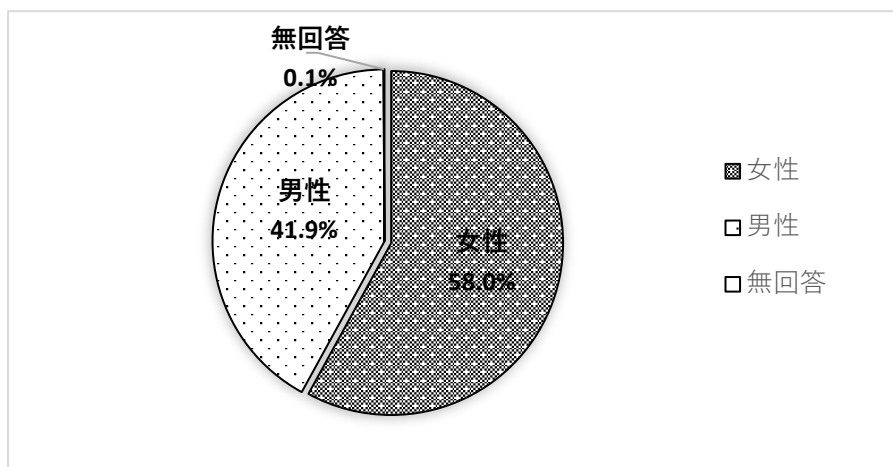
3 調査結果

(1) 回答者の属性

問1 統計上必要ですので、あなたの自認する性別をお聞かせください。

回答者の性別は、「女性」が58.0%、「男性」が41.9%、「無回答」が0.1%となっている。

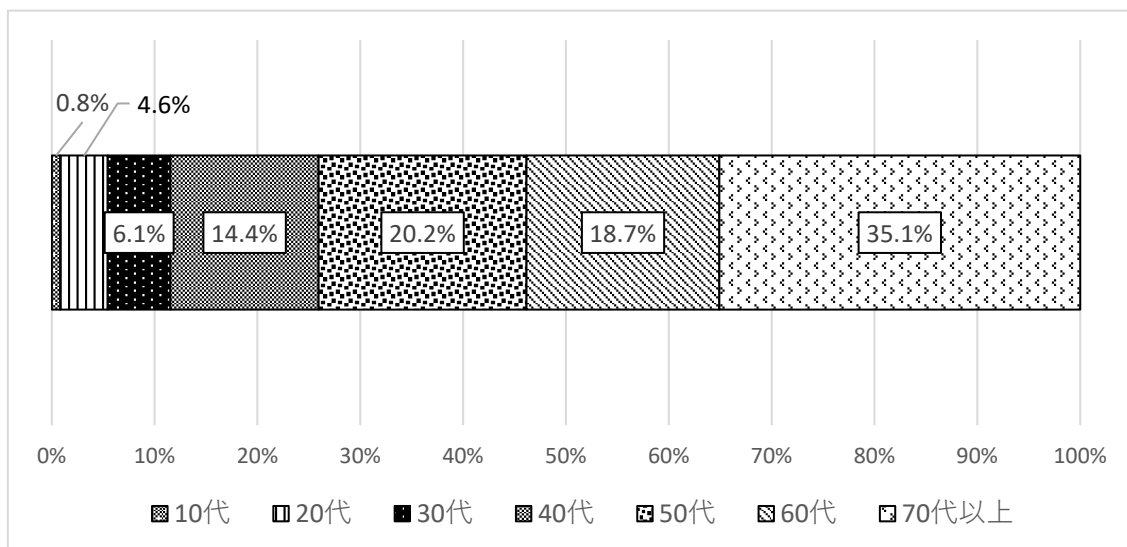
図1 回答者の性別 (n=1,083)



問2 あなたの年齢は次のうちどれですか。

回答者の年齢は、「70代以上」が35.1%と最も多く、次いで「50代」が20.2%、「60代」が18.7%となっている。

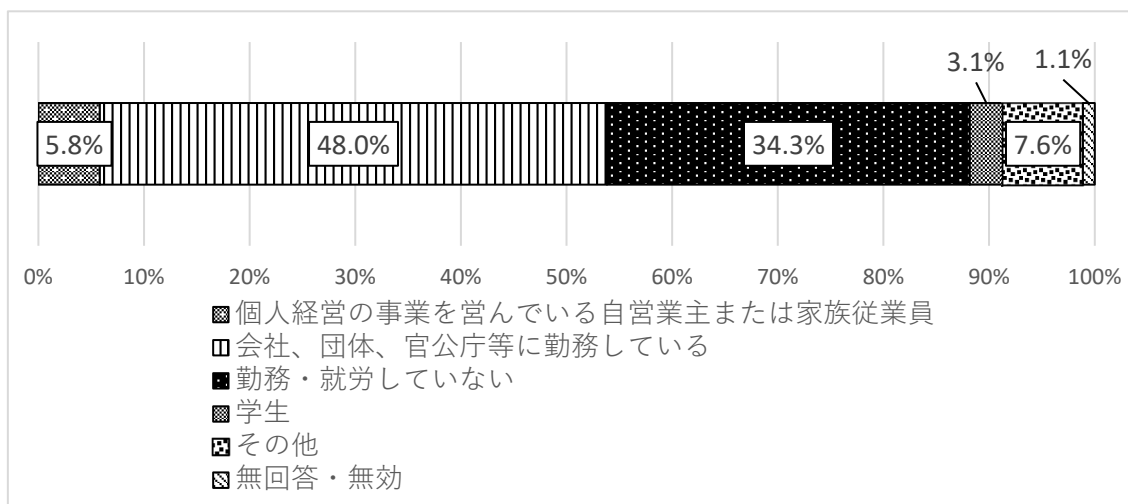
図2 回答者の年齢 (n=1,083)



問 3-1 あなたの就業状況をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

回答者の就業状況は、「会社、団体、官公庁等に勤務している」が 48.0%と最も多く、次いで「勤務・就労していない」が 34.3%、「その他」が 7.6%となっている。

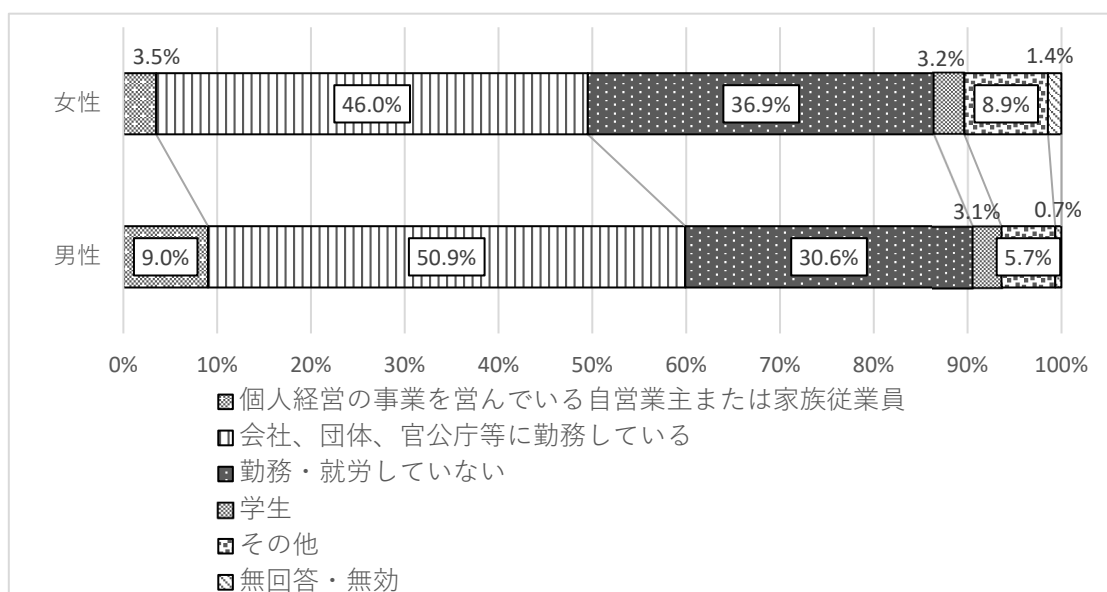
図 3-1 回答者の就業状況 (n=1,083)



性別

回答者の就業状況を性別にみると、女性は「会社、団体、官公庁等に勤務している」が 46.0%と最も多く、次いで、「勤務・就労していない」が 36.9%、「その他」が 8.9%となっている。男性は「会社、団体、官公庁等に勤務している」が 50.9%と最も多く、次いで、「勤務・就労していない」が 30.6%、「個人経営の事業を営んでいる自営業主または家族従業員」が 9.0%となっている。

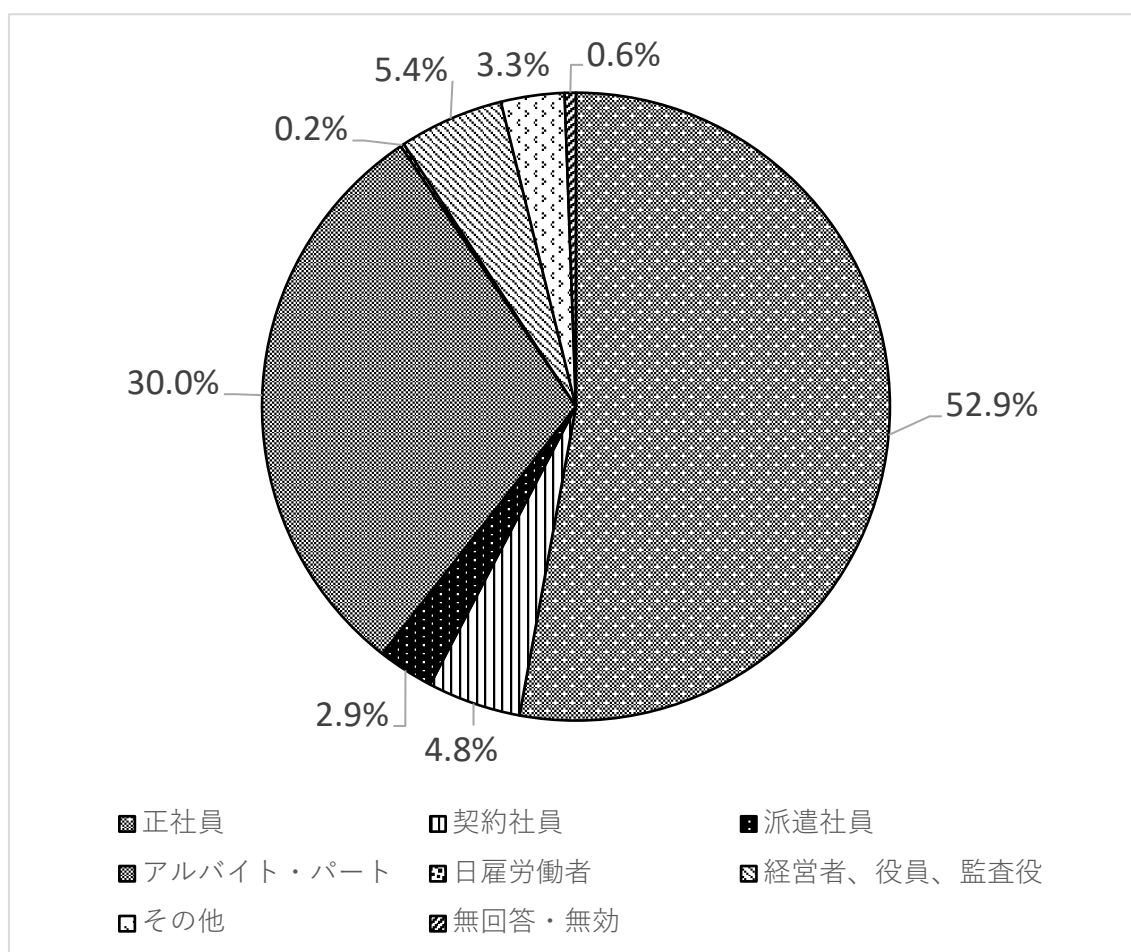
図 3-2 【性別】回答者の就業状況 (女性 n=628, 男性 n=454)



問 3-2 2)とお答えされた方は、雇用形態についても、お答えください。

「会社、団体、官公庁等に勤務している」と答えた人のうち、最も多かった雇用形態は「正社員」で 52.9%を占めている。次いで、「アルバイト・パート」が 30.0%、「経営者、役員、監査役」が 5.4%、「契約社員」が 4.8%、「その他」が 3.3%、「派遣社員」が 2.9%、「日雇労働者」が 0.2%、「無回答・無効」が 0.6%となっている。

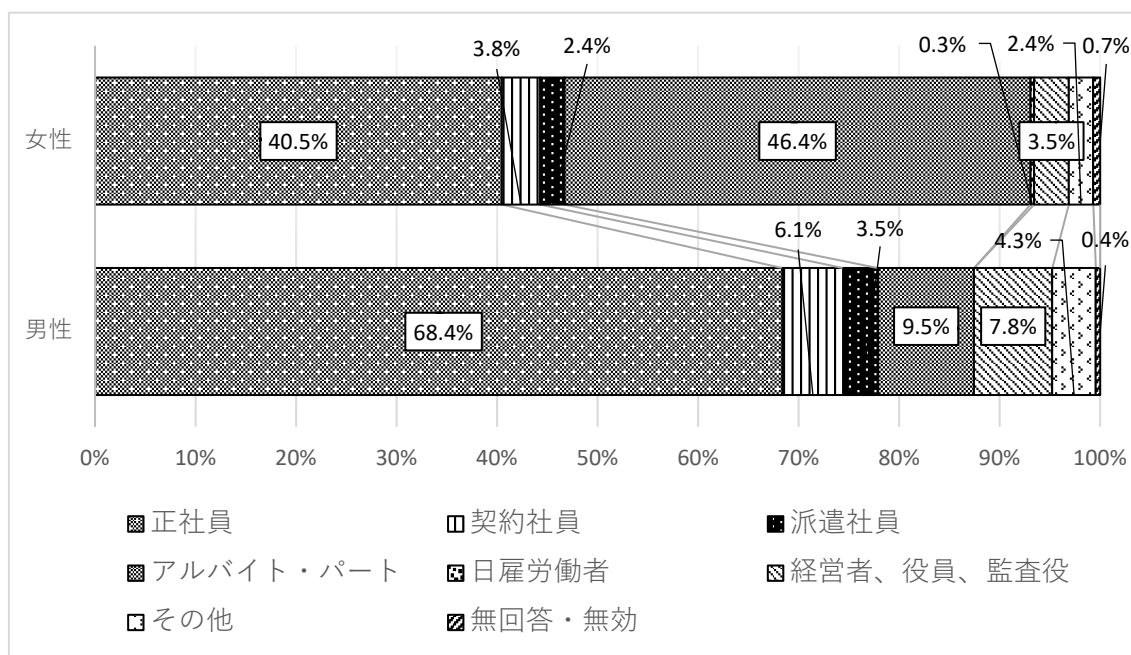
図 4-1 雇用形態 (n=520)



性別

回答者の雇用形態を性別にみると、「正社員」と答えた割合は、女性で 40.5%、男性で 68.4% となり、男性の方が 27.9 ポイント高い。一方、「アルバイト・パート」と答えた割合は、女性で 46.4%、男性で 9.5% となり、女性の方が 36.9 ポイント高い結果となっている。

図 4-2 【性別】雇用形態（女性 n=289, 男性 n=231）



(2) 男女共同参画について

問 4 日常生活における次の項目で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目ごとにあてはまる番号を選んで○印をつけてください。

家事、育児、職場、社会通念・慣習・しきたりなどの日常生活における男女の地位の平等感について、全体の傾向や経年変化を確認した後、各項目において性別や年齢などの詳細な検討を加えていく。

「育児」～「社会通念・慣習・しきたり」の 8 つの項目のうち、「平等」と答えた人が半数以上を占めるのは「学校園での教育」のみで 65.2%となっている。次いで、「平等」と答えた人が多い項目は、「地域活動」で 48.7%となっている。

それ以外の項目は「男性優遇感」が強く表れている。具体的には、その割合が多い順から、「政治」78.4%、「社会通念・慣習・しきたり」78.0%、「家事」73.8%、「育児」67.1%、「職場」60.7%、「介護」58.3%となっている。

前回調査においても、「平等」と答えた人が半数以上を占めた項目は、「学校教育」であり、教育分野における男女の地位を「平等」ととらえる人が多い傾向には変化はない。

「平等」と答えた人の割合が前回調査より増加した項目は、「家事」「職場」「学校園での教育」「地域活動」「政治」であり、増加率が最も高かったのは「地域活動」で 11.1 ポイントとなっている。ただし、「地域活動」は前回調査では「地域活動（自治会、PTA 活動など）」、今回調査では「地域活動（自治会、ボランティアなど）」と表現が異なっており、単純な比較ができない点には注意する必要がある。

また、「政治」の「平等感」は前回調査よりも増加しているが、「男性の方が優遇されている」の割合も、前回調査に比べて増加している。

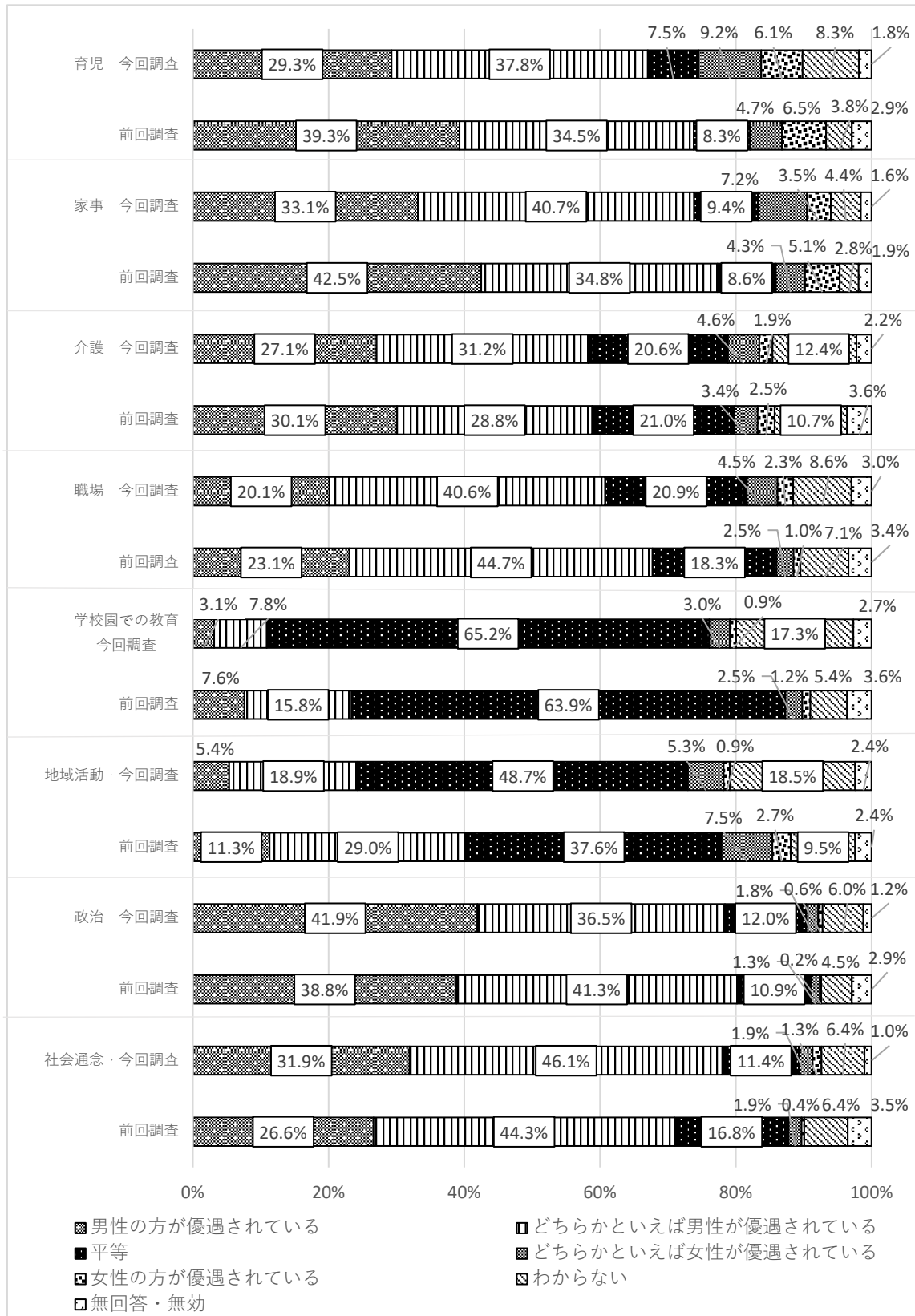
また、前回調査と今回調査では項目に違いがあるため、単純な比較はできないが、前回調査において「男性優遇感」が最も高かった項目は「政治」であり、今回調査でも同様の結果がみられている。

※「男性優遇感」＝「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」

「女性優遇感」＝「女性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば女性が優遇されている」

図 5-1 各項目の男女の地位の平等感

前回調査との比較(今回調査 n=1,083, 前回調査 n=891)



育児

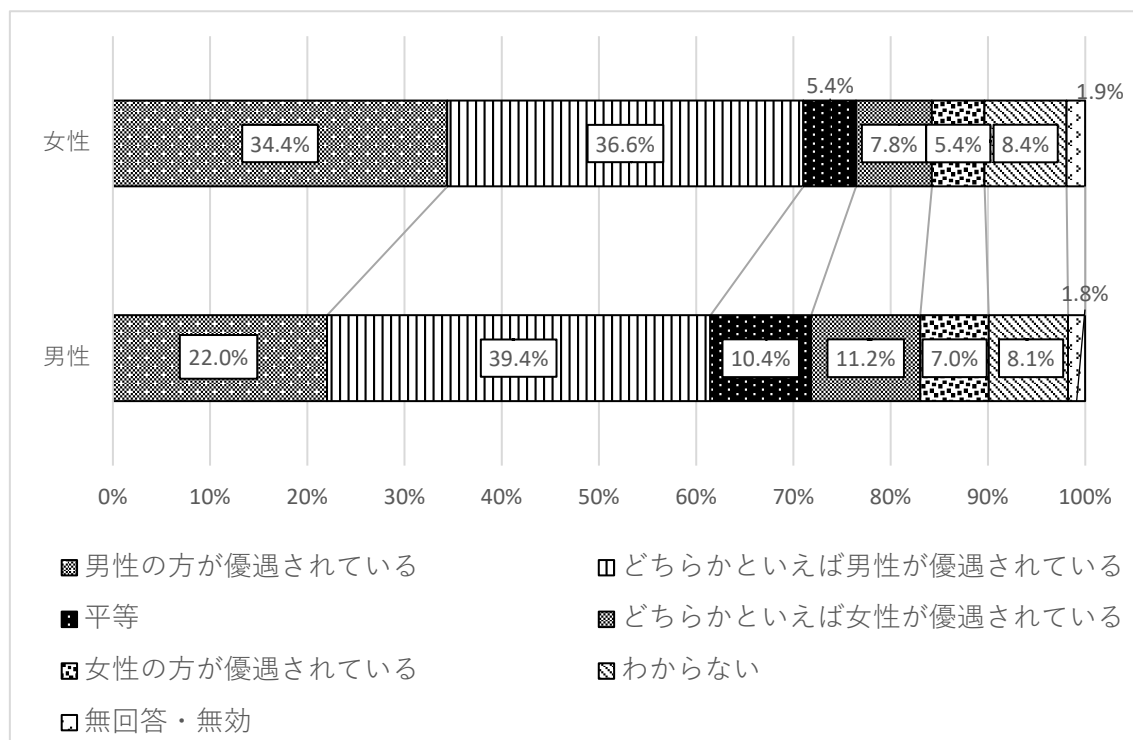
「育児」に関する男女の地位の平等感を性別にみると、「男性優遇感」は、女性で 71.0%、男性で 61.4%となっており、女性の方が 9.6 ポイント高い。

「平等感」は女性で 5.4%、男性で 10.4%となり、男性の方が 5.0 ポイント高い。

「女性優遇感」は、女性で 13.2%、男性で 18.2%となり、男性の方が 5.0 ポイント高い。

前回調査と比較をすると、「男性優遇感」は女性の方が、「平等感」は男性の方が高くなる傾向には変化がない。「女性優遇感」については、前回調査では男女差はなかったが、今回調査では男性の方が高い結果となっている。

図 5-2-1 【性別】「育児」の男女の地位の平等感
(女性 n=628, 男性 n=454)

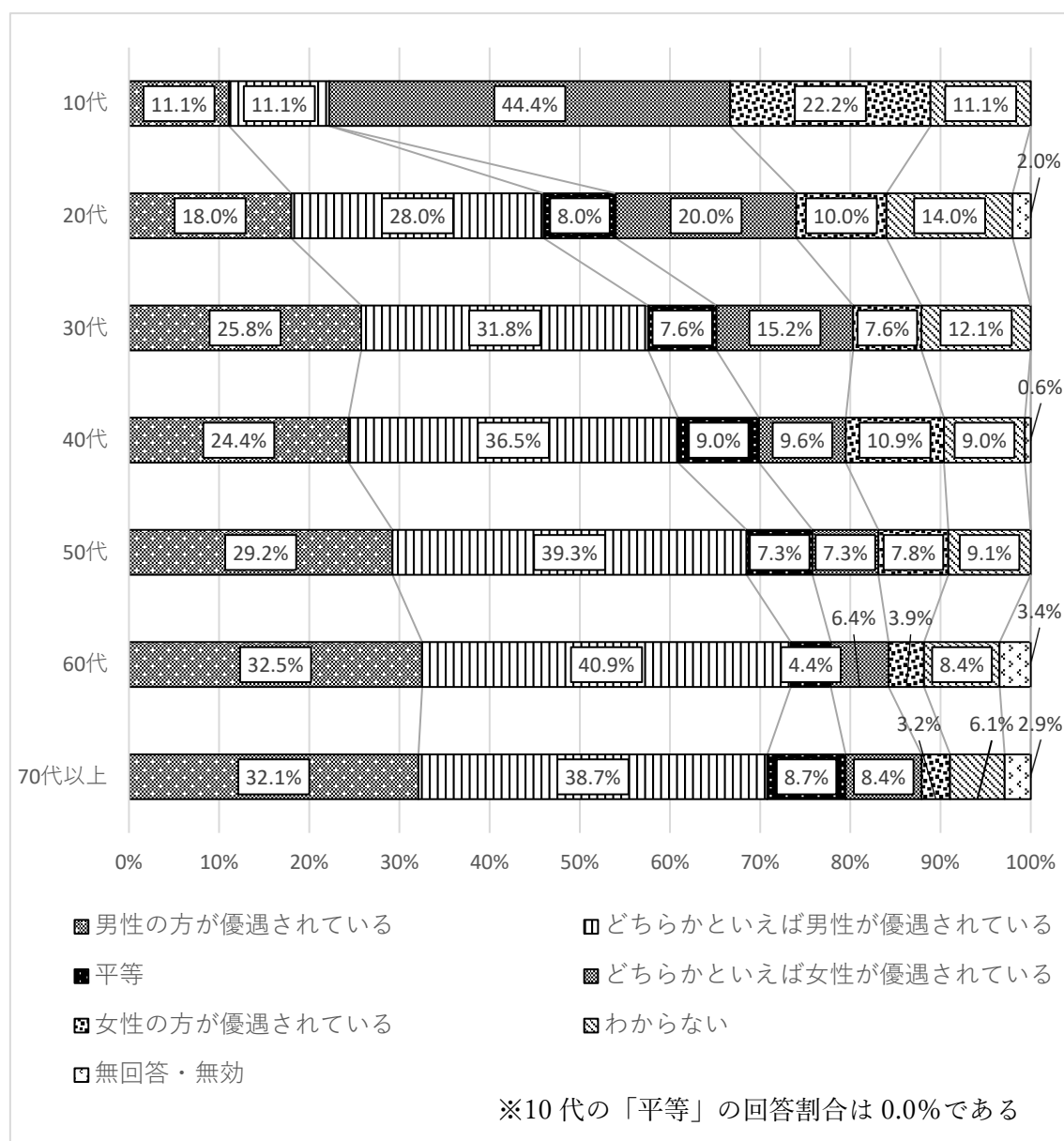


年齢別にみると、20代以上の全ての年齢層で「女性優遇感」よりも「男性優遇感」の割合が高い。その差が特に大きかったのは、「60代」で、「女性優遇感」10.3%、「男性優遇感」73.4%となり63.1ポイント差が開いている。

一方で「10代」は「男性優遇感」よりも「女性優遇感」の割合が高く、それぞれ22.2%、66.6%となり差は44.4ポイントとなっている。

前回調査では全ての年齢層で「男性優遇感」が「女性優遇感」を上回っていたが、今回調査では10代を除いた年齢層で「男性優遇感」が「女性優遇感」を上回る結果となっている。

図 5-2-2 【年齢別】「育児」の男女の地位の平等感
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



家事

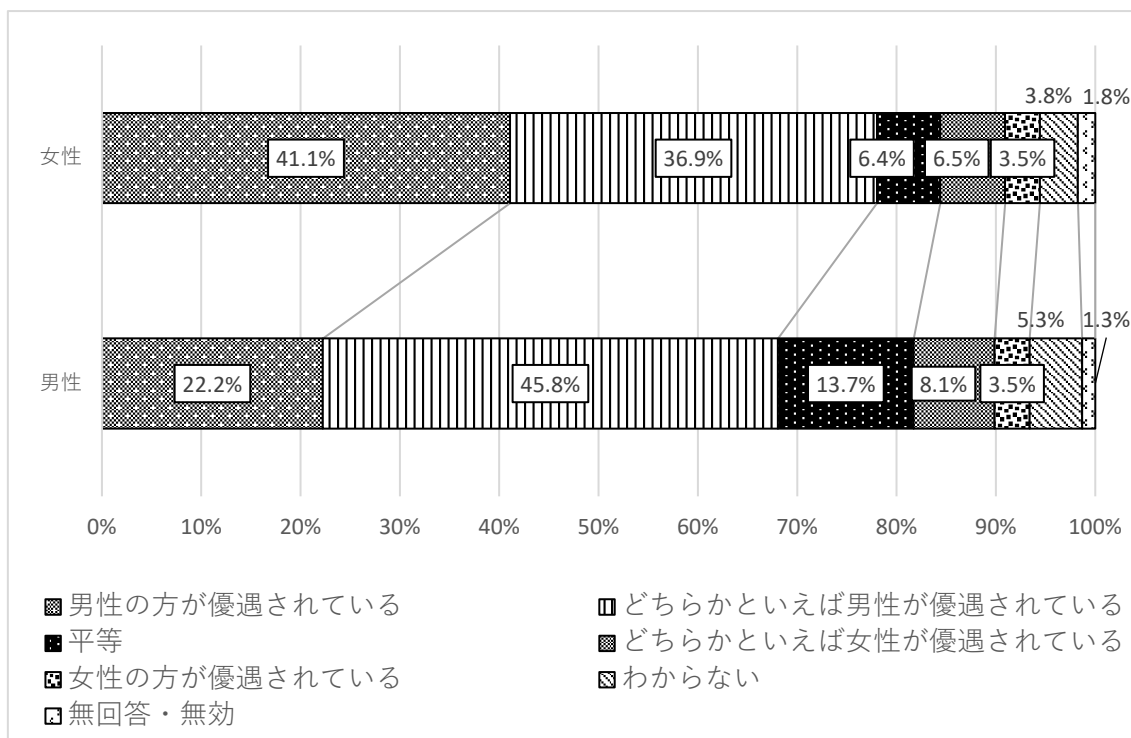
「家事」に関する男女の地位の平等感を性別にみると、「男性優遇感」は、女性で 78.0%、男性で 68.0%となっており、女性の方が 10.0 ポイント高い。

「平等感」は女性で 6.4%、男性で 13.7%となり、男性の方が 7.3 ポイント高い。

「女性優遇感」は、女性で 10.0%、男性で 11.6%となり、男女間でほとんど差はみられない。

前回調査も、男性よりも女性に「男性優遇感」が高く、女性よりも男性に「平等感」が高く、また、「女性優遇感」は男女差があまりみられない傾向となっており、変化はみられない。

図 5-3-1 【性別】「家事」の男女の地位の平等感
(女性 n=628, 男性 n=454)

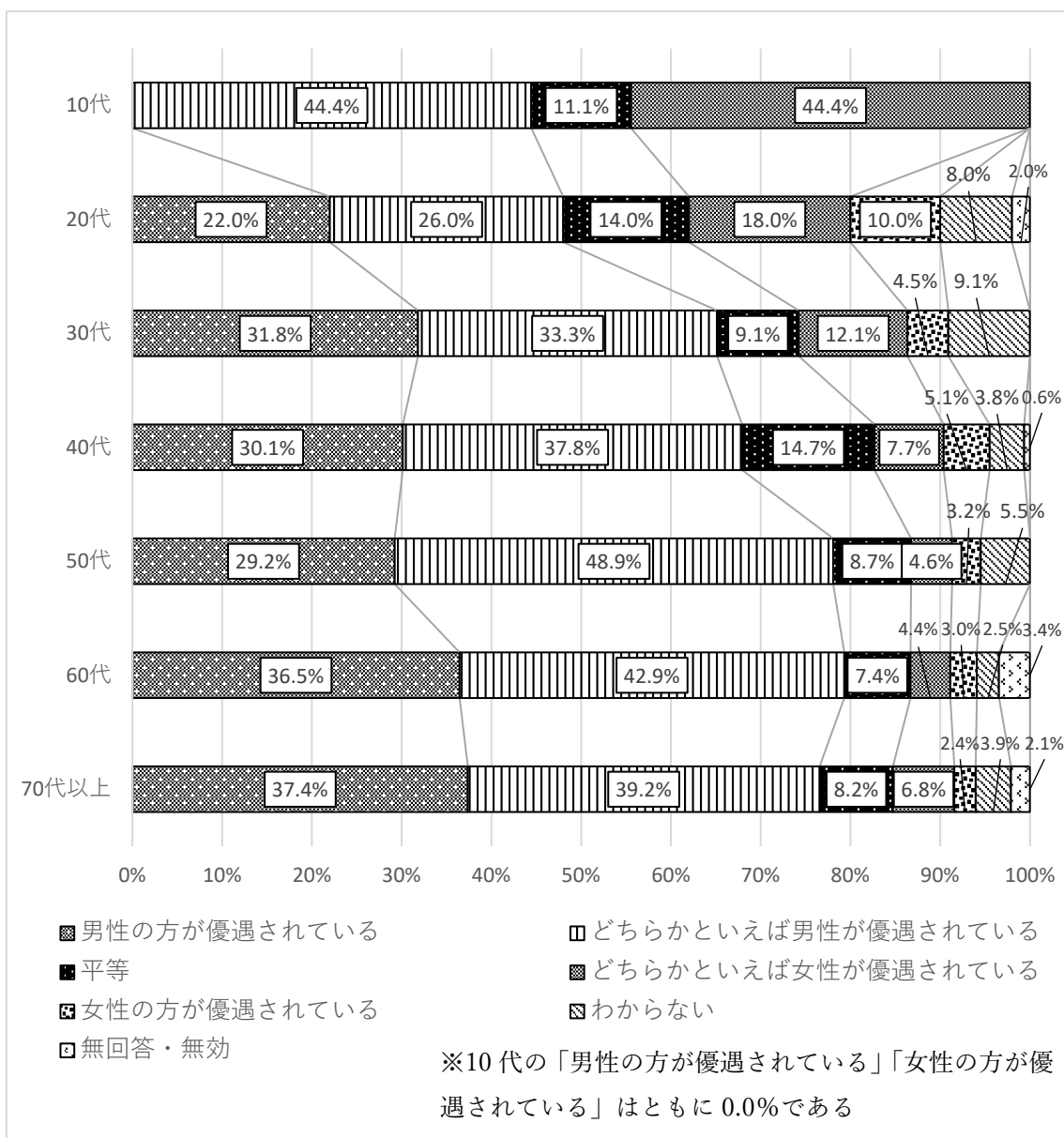


年齢別でみると、20代以上の全ての年齢層で「女性優遇感」より「男性優遇感」の割合が高い。特にその差が特に大きかったのは、「60代」で、「女性優遇感」7.4%、「男性優遇感」79.4%となり72.0ポイント差が開いている。

一方で、「10代」は「女性優遇感」と「男性優遇感」の割合は同数という結果となっている。

前回調査では、「16～24歳」の「男性優遇感」が44.5%と他の年齢層に比べて低かったが、今回調査においても同様に、若年層にその傾向がみられる。

図 5-3-2 【年齢別】「家事」の男女の地位の平等感
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



介護

「介護」に関する男女の地位の平等感は、性別によってそのとらえ方に大きな違いがみられる。

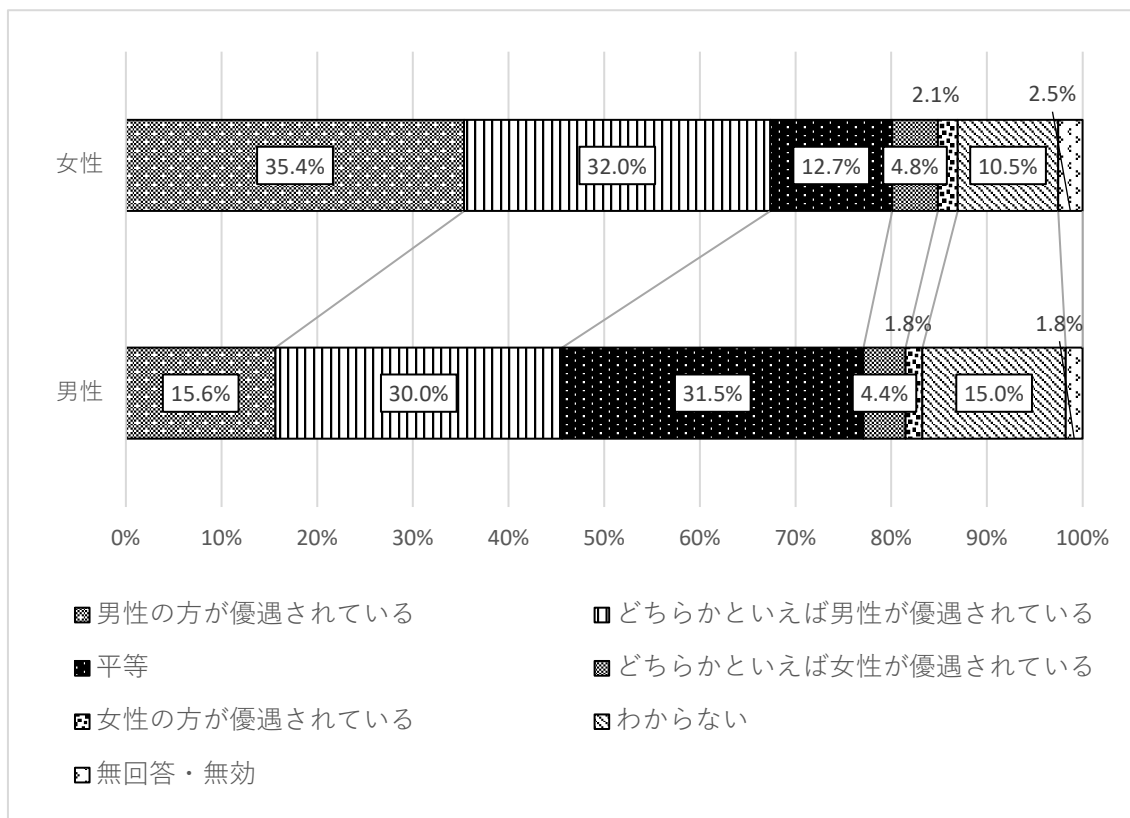
「男性優遇感」は、女性で 67.4%、男性で 45.6%となっており、女性の方が 21.8 ポイント高い。

「平等感」は女性で 12.7%、男性で 31.5%となり、男性の方が 18.8 ポイント高い。

「女性優遇感」は、女性で 6.9%、男性で 6.2%となり、男女間でほとんど差はみられない。

この傾向は前回調査でも確認でき、「男性優遇感」及び「平等感」の男女差が大きいことも変化がない。

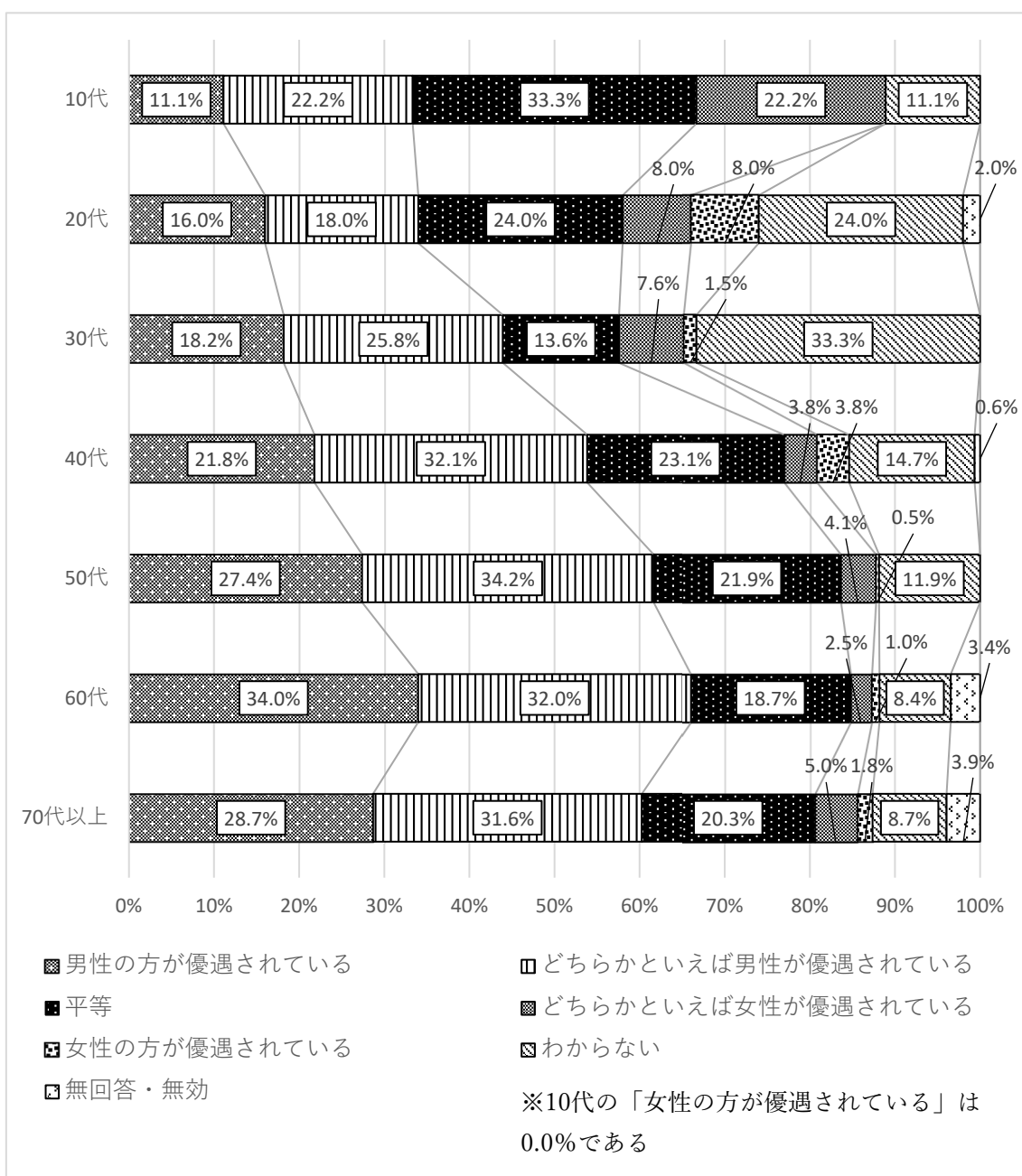
図 5-4-1 【性別】「介護」の男女の地位の平等感
(女性 n=628, 男性 n=454)



年齢別でみると、全ての年齢層で「女性優遇感」より「男性優遇感」の割合が高い。特にその差が大きかったのは、「60代」で、「女性優遇感」3.5%、「男性優遇感」66.0%となり 62.5 ポイント差が開いている。

また、若年層において「わからない」と回答した割合が高く、最も高かった「30代」では 33.3% となっている。この傾向は前回調査でもみられている。

図 5-4-2 【年齢別】「介護」の男女の地位の平等感
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



職場

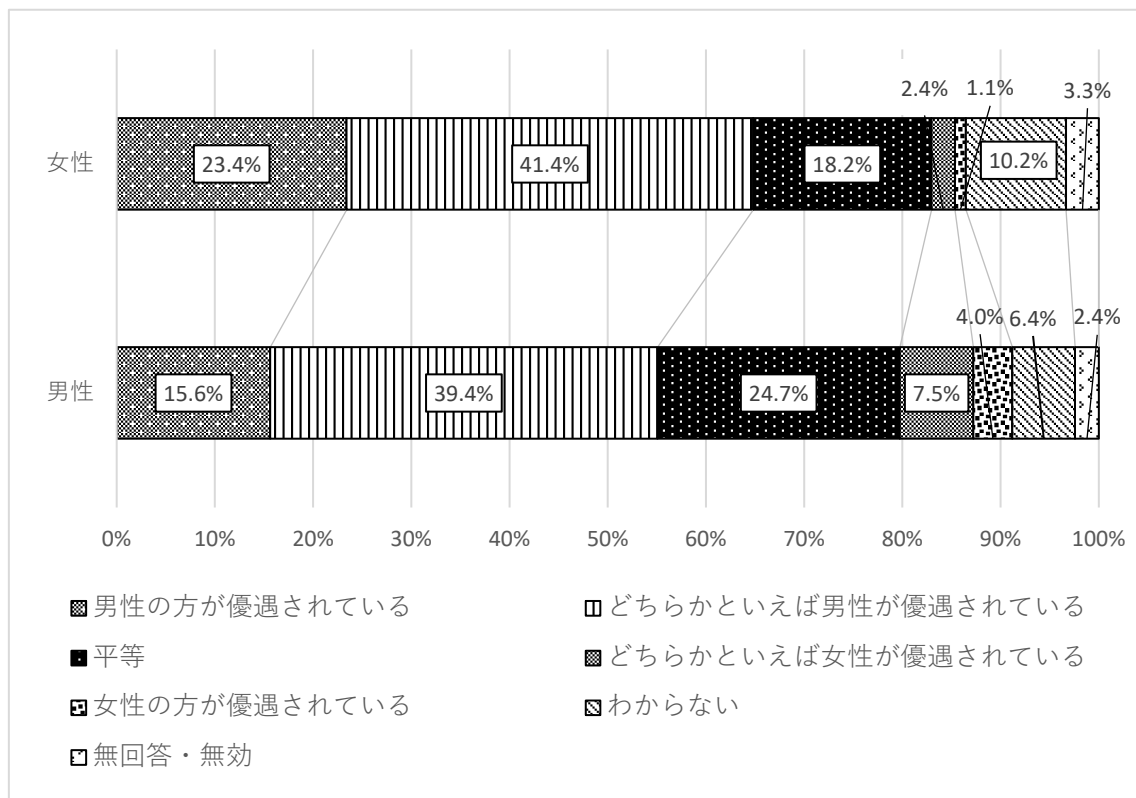
「職場」に関する男女の地位の平等感を性別にみると、「男性優遇感」は、女性で 64.8%、男性で 55.0%となっており、女性の方が 9.8 ポイント高い。

「平等感」は女性で 18.2%、男性で 24.7%となり、男性の方が 6.5 ポイント高い。

「女性優遇感」は、女性で 3.5%、男性で 11.5%となり、男性の方が 8.0 ポイント高い。

前回調査と比較すると、「男性優遇感」は女性の方が、「平等感」は男性の方が高いという傾向には変化がない。「女性優遇感」は前回調査では男女差はみられなかったが、今回調査においては男性の方が高くなっている。

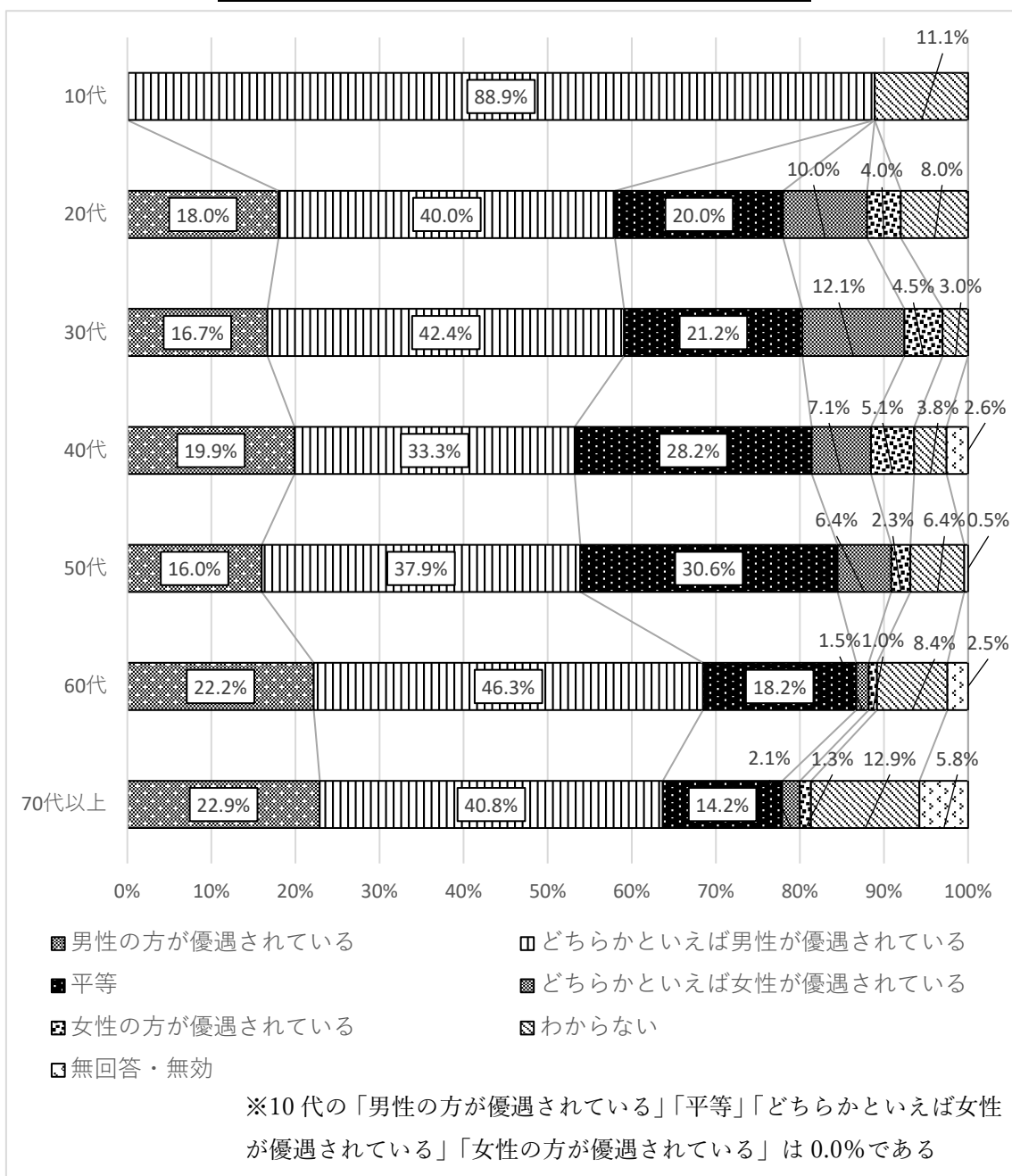
図 5-5-1 【性別】「職場」の男女の地位の平等感
(女性 n=628, 男性 n=454)



年齢別でみると、全ての年齢層で「女性優遇感」より「男性優遇感」の割合が高く、半数を超える結果となっている。特にその差が大きかったのは、「10代」で、「女性優遇感」0.0%、「男性優遇感」88.9%となり88.9ポイント差が開いている。

前回調査では「16～24歳」の「男性優遇感」が44.4%と最も低く、今回調査と対照的な結果となっている。

図 5-5-2 【年齢別】「職場」の男女の地位の平等感
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



学校園での教育

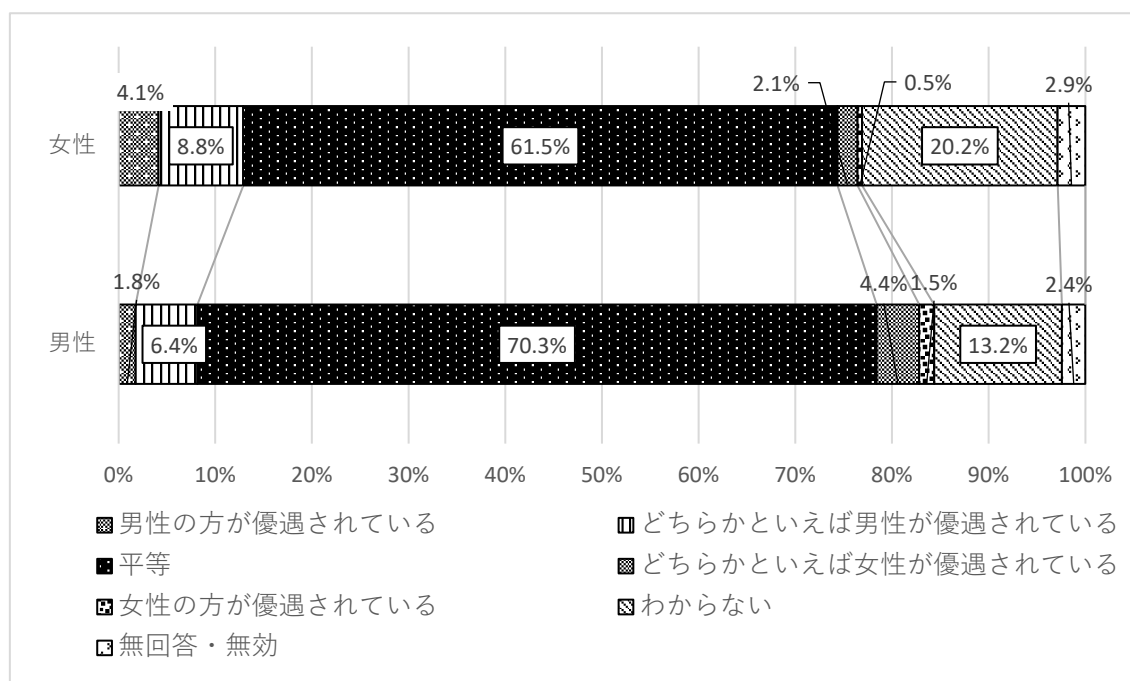
「学校園での教育」に関する男女の地位の平等感を性別にみると、「男性優遇感」は、女性で12.9%、男性で8.2%となっており、男女間で大きな差はみられない。

「平等感」は女性で61.5%、男性で70.3%となり、男性の方が8.8ポイント高い。

「女性優遇感」は、女性で2.6%、男性で5.9%となり、男女間で大きな差はみられない。

前回調査と比較をすると、「平等感」は男性の方が高く、「女性優遇感」は男女差がみられない点については一致している。「男性優遇感」は、前回調査では女性の方が高かったが、今回調査では男女間で大きな差はみられていない。

図 5-6-1 【性別】「学校園での教育」の男女の地位の平等感
(女性 n=628, 男性 n=454)

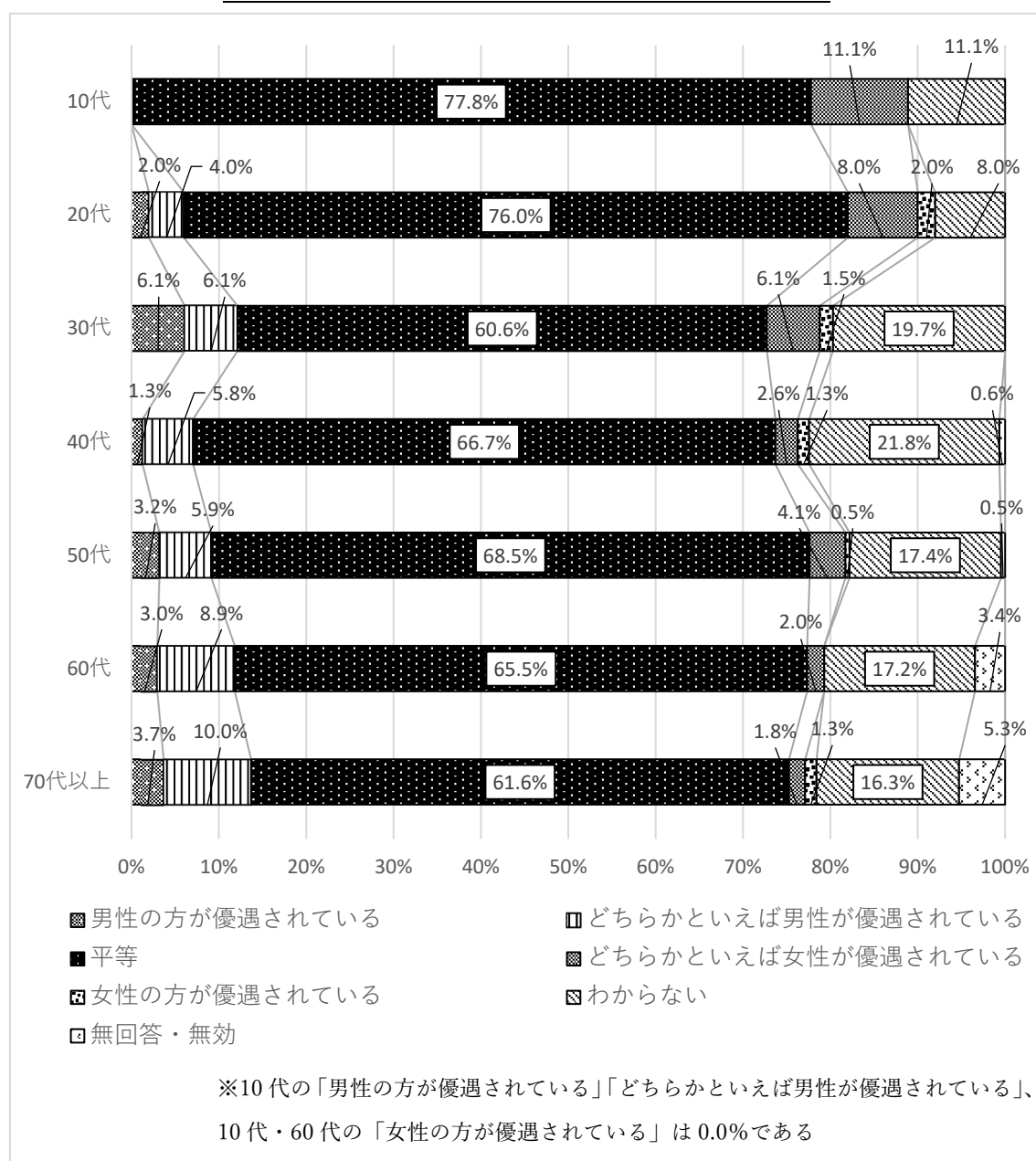


年齢別でみると、若年層において、より「平等感」が高く「10代」で77.8%、「20代」で76.0%となっている。また、「10代」「20代」は「男性優遇感」より「女性優遇感」の割合が高い。

30代以上の全ての年齢層で「女性優遇感」より「男性優遇感」の割合が高いが、その差は他項目に比べ小さく、「70代以上」で10.6ポイントの差があった程度にとどまっている。

前回調査においても概ね年齢が高くなるにつれ「平等感」が低下しており、その傾向に変化はない。

図 5-6-2 【年齢別】「学校園での教育」の男女の地位の平等感
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



地域活動（自治会、ボランティアなど）

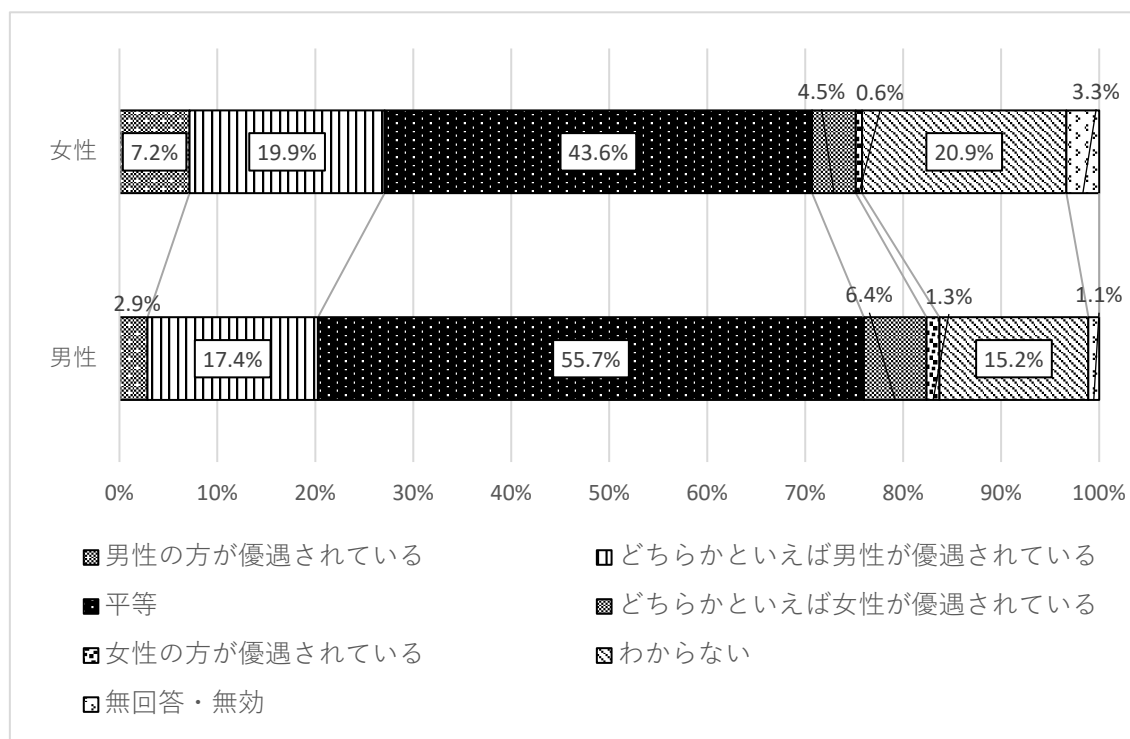
「地域活動」に関する男女の地位の平等感を性別にみると、「男性優遇感」は、女性で 27.1%、男性で 20.3%となっており、女性の方が 6.8 ポイント高い。

「平等感」は女性で 43.6%、男性で 55.7%となり、男性の方が 12.1 ポイント高い。

「女性優遇感」は、女性で 5.1%、男性で 7.7%となり、男女間で大きな差はみられない。

前回調査と比べると傾向は大きく変わっていないが、「男性優遇感」の男女差は縮小しており、前回調査では 20.7 ポイントであったのに対し、今回調査では 6.8 ポイントであった。

図 5-7-1 【性別】「地域活動」の男女の地位の平等感
(女性 n=628,男性 n=454)



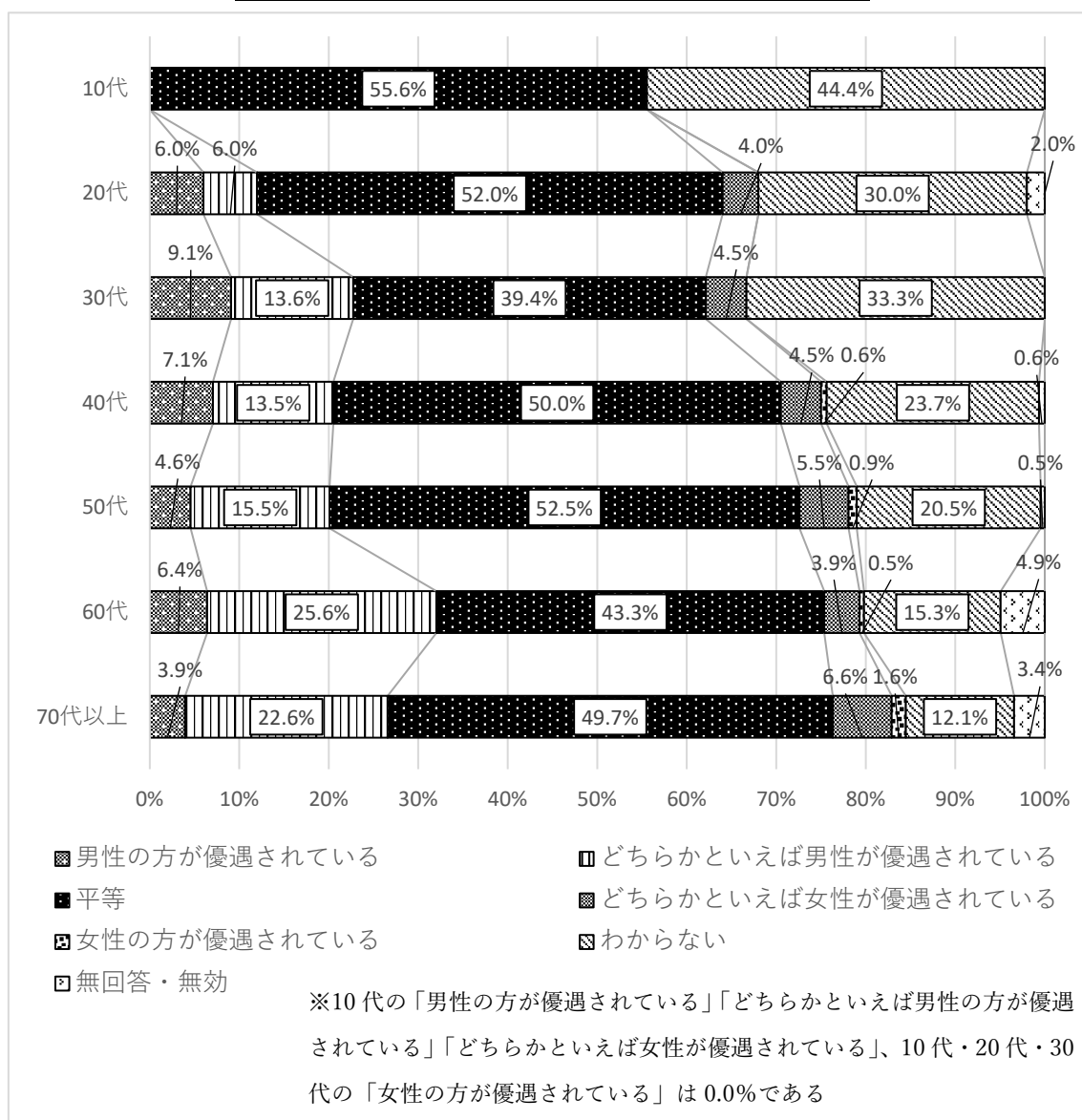
年齢別にみると、「平等感」は「30代」が最も低く、他年齢層では43.3%～55.6%であるのに対し、39.4%となっている。

20代以上の年齢層で「女性優遇感」より「男性優遇感」の割合が高く、その差が最も大きかったのは「60代」で27.6ポイントとなっている。

「地域活動」は他項目に比べ「わからない」の割合が最も高いが、その中でも10代～30代にその傾向が強く表れ、最も高かった「10代」では44.4%が「わからない」と回答している。

前回調査と比較して、全ての年齢層において「平等感」は高くなっている。また、前回調査においても若年層の「わからない」の割合は高いが、その割合は今回調査の方が高くなっている。

図 5-7-2 【年齢別】「地域活動」の男女の地位の平等感
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



政治

「政治」に関する男女の地位の平等感を性別にみると、「男性優遇感」は、女性で 82.4%、男性で 72.9%となっており、女性の方が 9.5 ポイント高い。

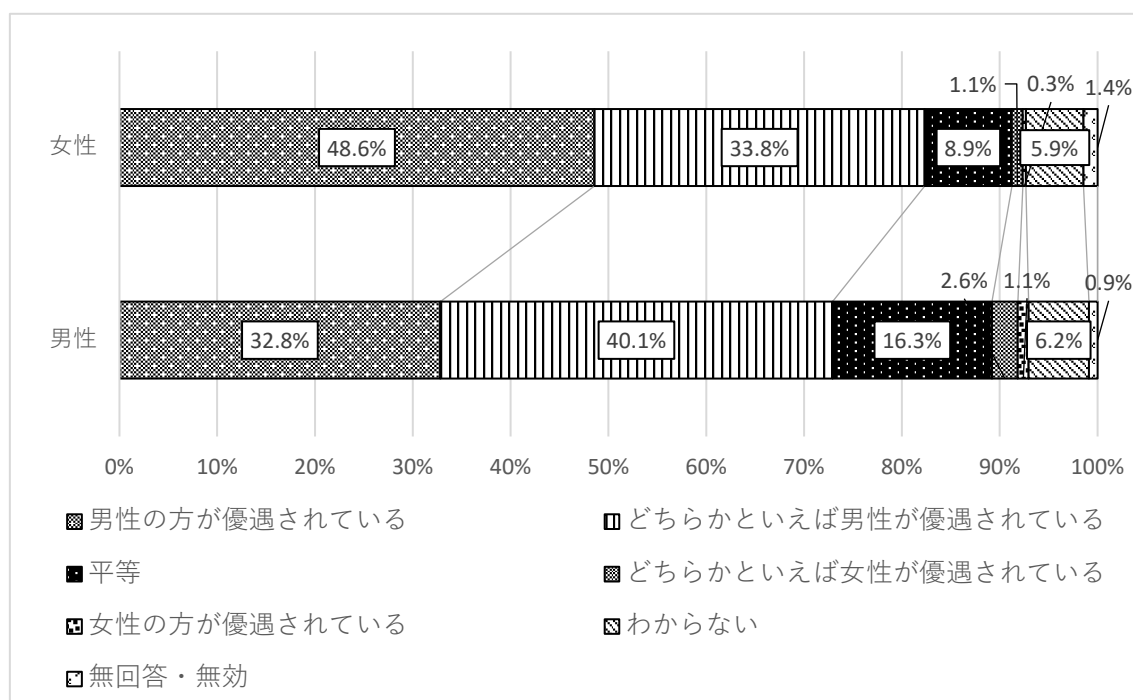
「平等感」は女性で 8.9%、男性で 16.3%となり、男性の方が 7.4 ポイント高い。

「女性優遇感」は、女性で 1.4%、男性で 3.7%となり、男女間で大きな差はみられない。

前回調査も同様の傾向である。

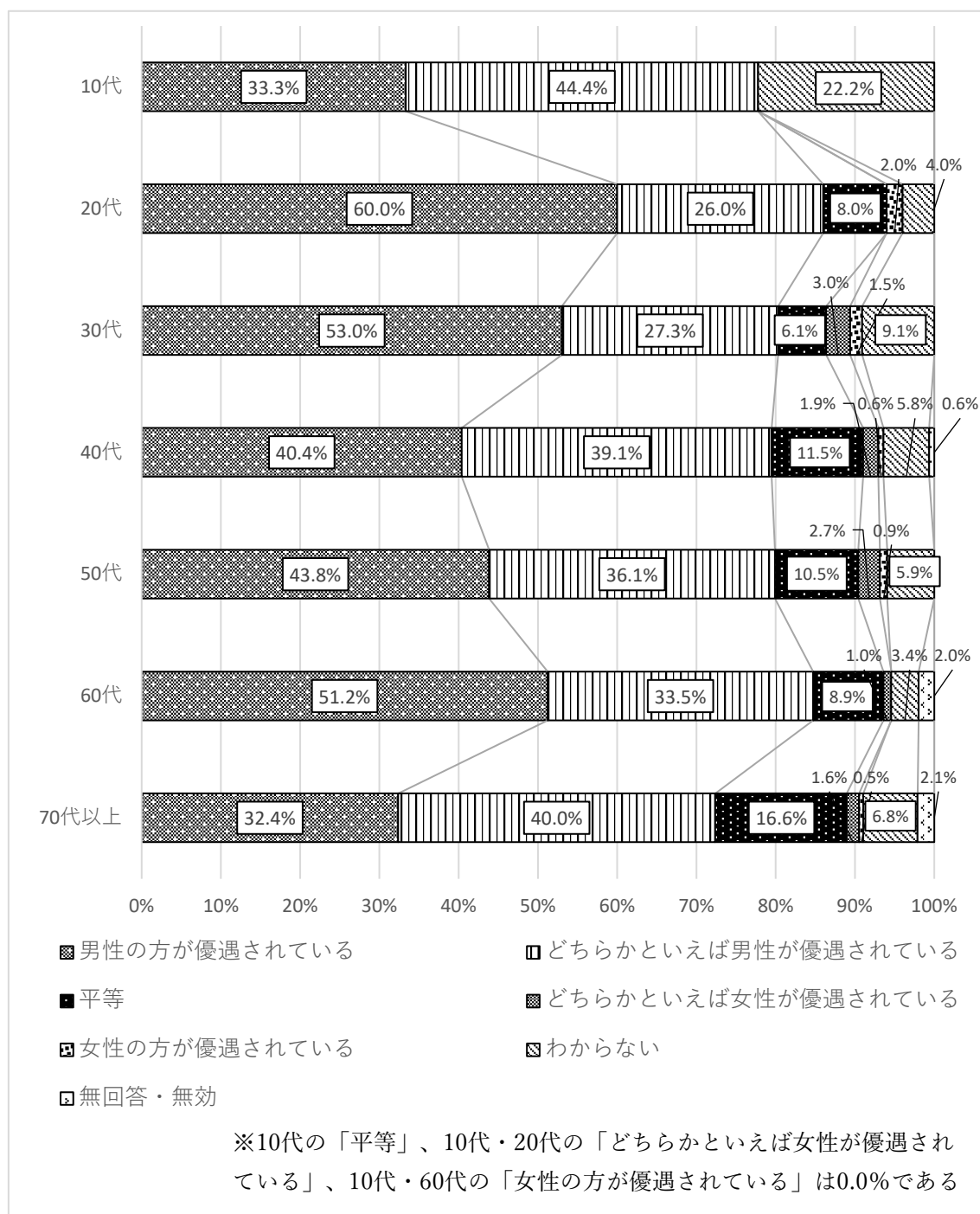
図 5-8-1 【性別】「政治」の男女の地位の平等感

(女性 n=628,男性 n=454)



年齢別でみると、いずれの年齢層も「男性優遇感」は 70～80%台となっており、最も高い「20代」では 86.0%、最も低い「70代以上」では 72.4%となっている。前回調査においても「男性優遇感」は 70～80%台であり、その割合に大きな変化はみられない。

図 5-8-2 【年齢別】「政治」の男女の地位の平等感
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



社会通念・慣習・しきたり

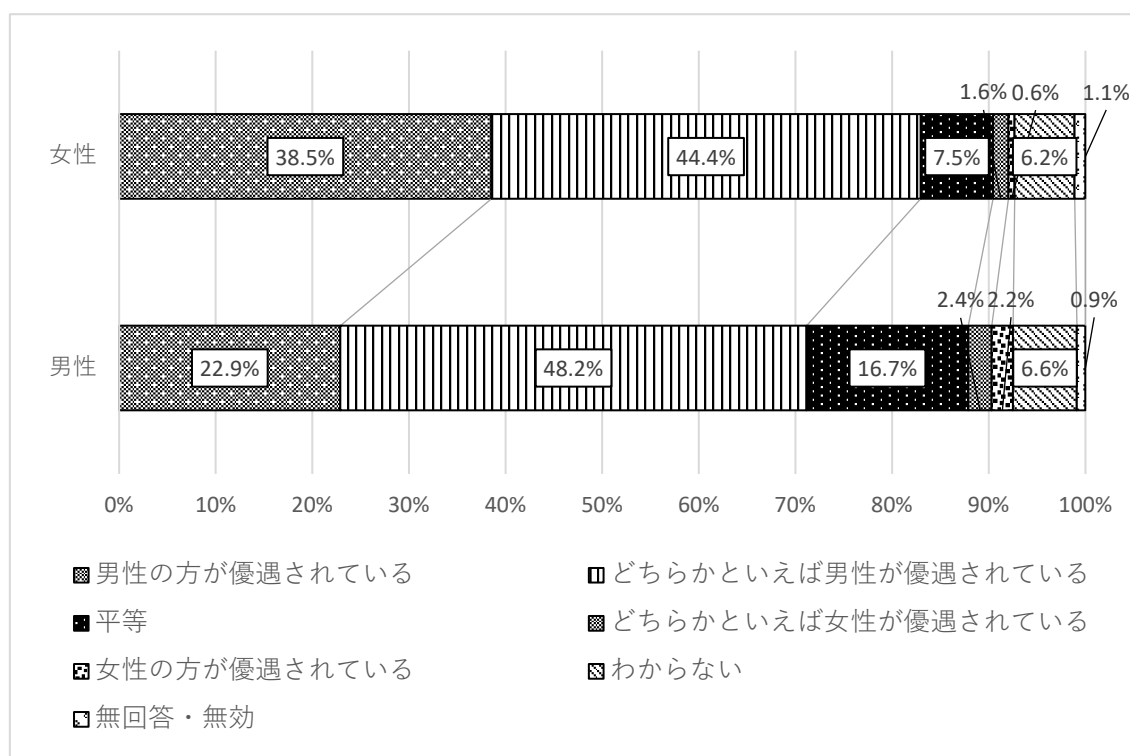
「社会通念・慣習・しきたり」に関する男女の地位の平等感を性別にみると、「男性優遇感」は、女性で 82.9%、男性で 71.1%となっており、女性の方が 11.8 ポイント高い。

「平等感」は女性で 7.5%、男性で 16.7%となり、男性の方が 9.2 ポイント高い。

「女性優遇感」は、女性で 2.2%、男性で 4.6%となり、男女間で大きな差はみられない。

前回調査も同様の傾向である。

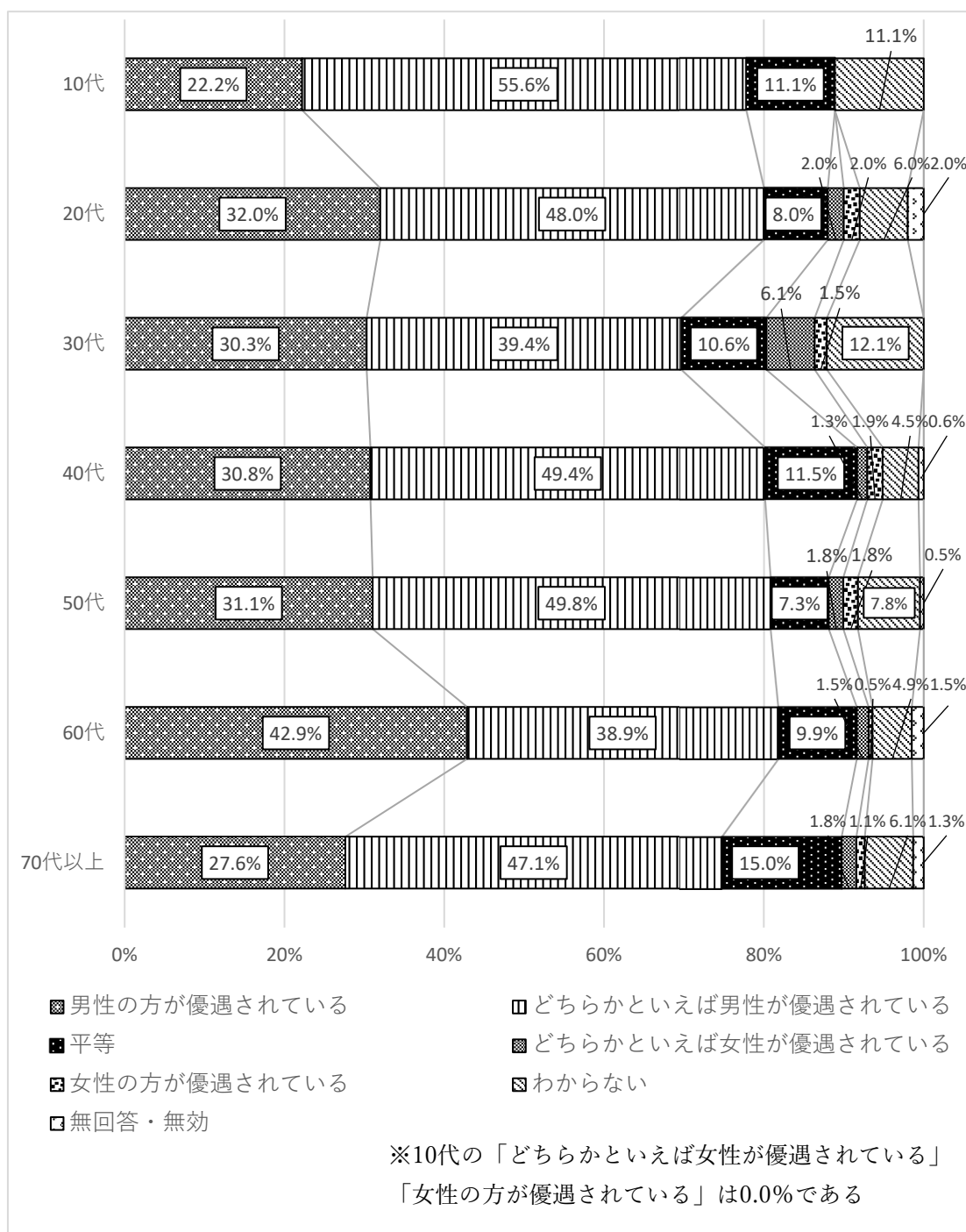
図 5-9-1 【性別】「社会通念・慣習・しきたり」の男女の地位の
平等感(女性 n=628,男性 n=454)



年齢別でみると、いずれの年齢も「男性優遇感」は60～80%台となっており、最も高い「60代」では81.8%、最も低い「30代」では69.7%となっている。前回調査と比べて若年層の「男性優遇感」は高くなっている。

5-9-2 【年齢別】「社会通念・慣習・しきたり」の男女の地位の平等感

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156, 50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



(各項目の総評)

・性別によって「男性優遇感」の割合は大きく異なっている

全ての項目において、男性より女性の方が「男性優遇感」の割合が多い。特にその割合の差が大きかった項目は「介護」であり、「男性優遇感」は女性で 67.4%、男性で 45.6%となり、差は 21.8 ポイントとなっている。つまり、男性に比べ女性の方が「男性が優遇されている」と感じている。

・性別によって「平等感」の割合は大きく異なっている

全ての項目において、女性より男性の方が「平等感」の割合が多い。特にその割合の差が大きかった項目は「介護」であり、「平等感」は女性で 12.7%、男性で 31.5%となり、差は 18.8 ポイントとなっている。つまり、女性に比べ男性の方が「平等」であると感じている。

・性別によって「女性優遇感」の割合に大きな差はみられない

先述の「男性優遇感」や「平等感」と比べ「女性優遇感」は、性別による割合の差は大きくない。その中でも最も差が大きかった項目は「職場」であり、女性で 3.5%、男性で 11.5%となり、差は 8.0 ポイントとなっている。

以上により、「男性優遇感」の割合は男性より女性の方が、「平等感」の割合は女性より男性の方が高い結果となっている。すなわち、各項目の地位の平等感に対するとらえ方は性別によって違いが生じている。

「女性優遇感」は性別による割合の差が小さい項目が多かったが、「職場」においては一定の差がみられ、女性より男性の方が高い結果となっている。

・一部の項目では全ての年齢層で「女性優遇感」より「男性優遇感」の割合が高い

「介護」「職場」「政治」「社会通念・慣習・しきたり」は全ての年齢層において、「女性優遇感」より「男性優遇感」の割合が高い。しかし、「育児」「学校園での教育」は若年層において「男性優遇感」よりも「女性優遇感」の方が高い結果となっている。

具体的には、「育児」では 10 代、「学校園での教育」では 10 代、20 代が「男性優遇感」よりも「女性優遇感」の割合が高い。

「家事」「地域活動」は 10 代において「男性優遇感」と「女性優遇感」が同数であり、その他の年齢層では「女性優遇感」より「男性優遇感」の割合が高い。

・主に日常的な性別による役割分担意識において、年齢が上がるにつれ「男性優遇感」も高まる傾向にある

「育児」「家事」「介護」「地域活動」においては、年齢が上がるにつれ「男性優遇感」もおおよそ高まる傾向がみられる。

問 5 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、＜反対＞は 48.2%となり、＜反対＞が＜賛成＞を 28.8 ポイント上回っている。

前回調査も＜賛成＞より＜反対＞の割合が高く、その傾向に変化はないが、前回調査と比べて＜賛成＞は 18.0 ポイント減少している。なお、＜反対＞の割合は大きな変化はみられない。

前回調査のみにあった選択肢、「わからない」は 9.5%であり、今回調査のみの選択肢、「どちらともいえない」は 24.7%を占めている。

※＜反対＞＝「反対」＋「どちらかといえば反対」 ＜賛成＞＝「賛成」＋「どちらかといえば賛成」

図 6-1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見 (n=1,083)

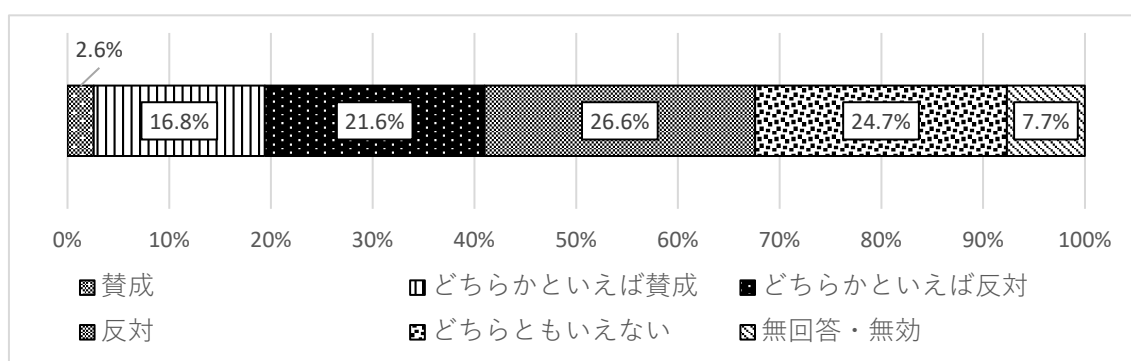
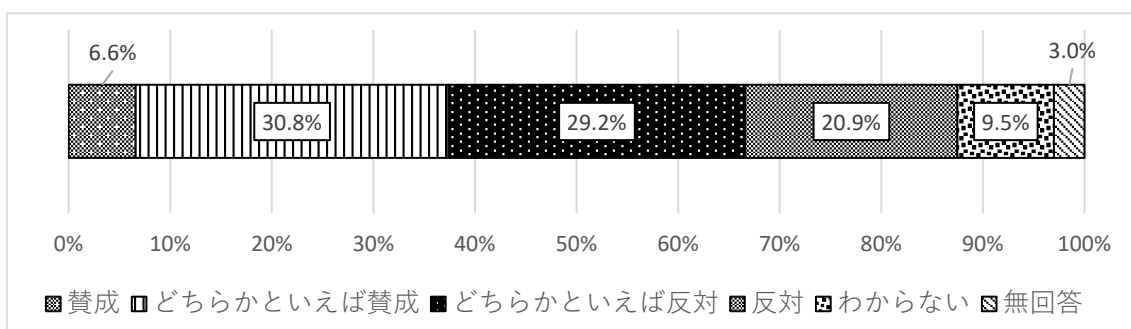


図 6-1-2 【前回調査】「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見 (n=891)



性別

性別で詳細にみると、＜賛成＞は、女性で 15.5%、男性で 24.9%となり、男性が女性を 9.4 ポイント上回っている。

前回調査と比較すると、＜賛成＞は女性より男性の方が多い傾向に変化はなかったが、男女共に＜賛成＞の割合は減少している。なお、＜反対＞の割合は大きな変化はみられない。

前回調査のみにあった選択肢、「わからない」は男女ともに 10.0%未満であり、今回調査のみの選択肢、「どちらともいえない」は男女ともに 20.0%を超える結果となっている。

図 6-2-1 【性別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に
対する意見（女性 n=628,男性 n=454）

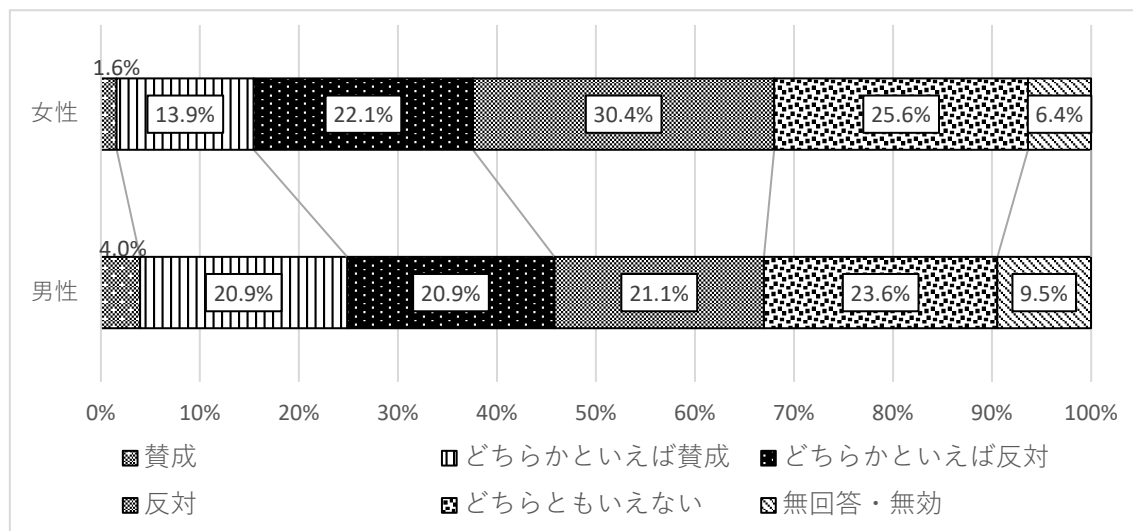
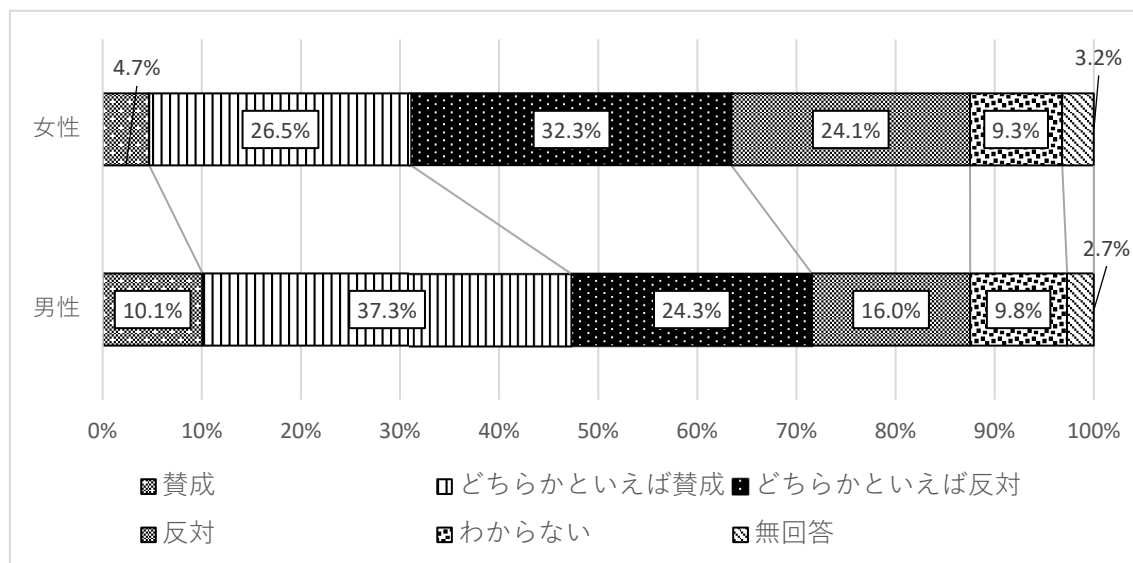


図 6-2-2 【前回調査/性別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に
対する意見（女性 n=536,男性n=338）



年齢別

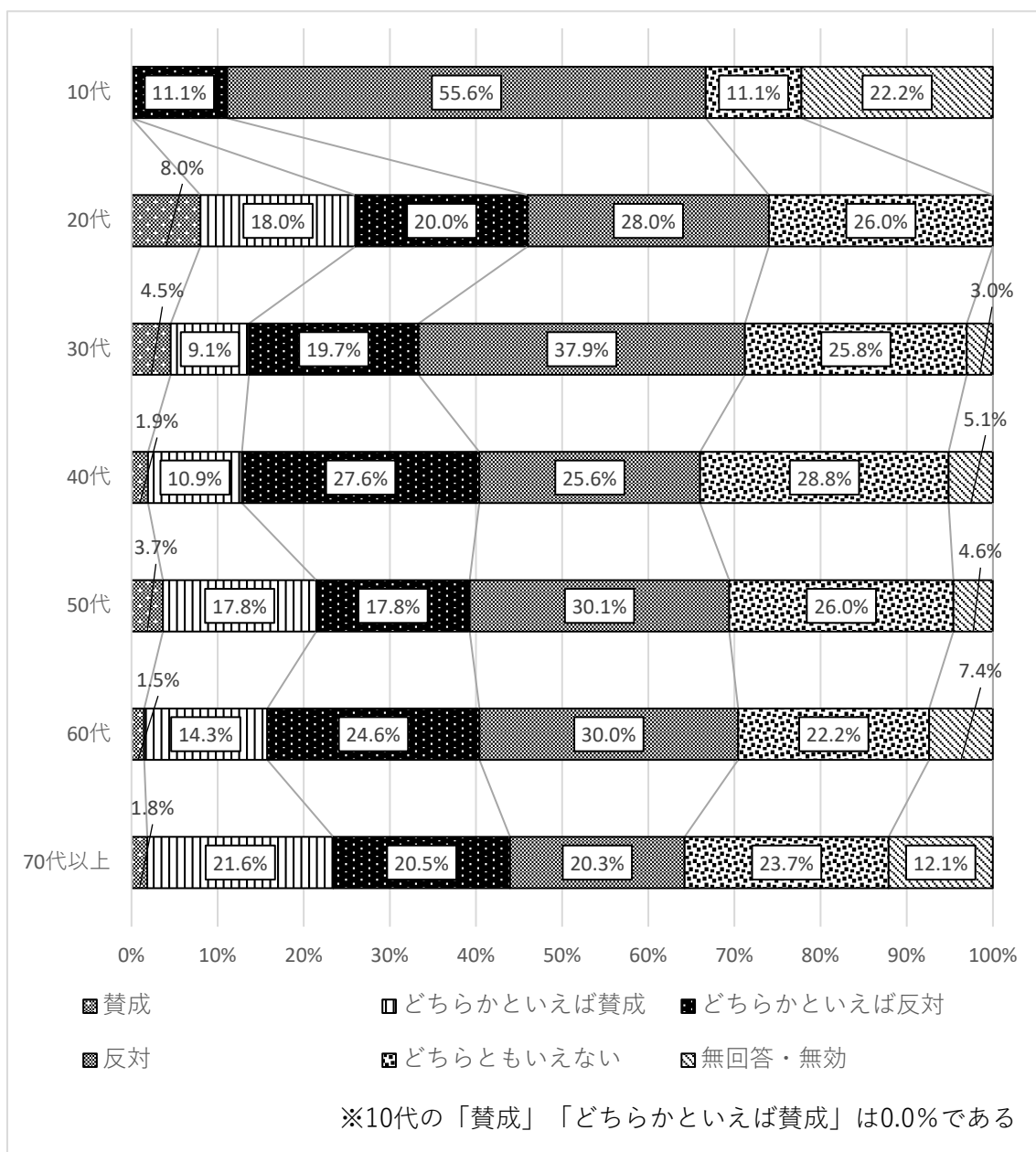
年齢別で詳細にみると、全ての年齢層で＜反対＞が＜賛成＞を上回っている。＜賛成＞と＜反対＞の差が最も大きかったのは「10代」で、それぞれ0.0%、66.7%となり、差は66.7%となっている。

また、「20代」では＜賛成＞が26.0%となっており、他年齢に比べて最も多くなっている。

前回調査では、＜賛成＞が＜反対＞を上回っているのは「65歳以上」のみであったが、今回調査では全ての年齢層で＜反対＞が多い結果となっている。

図 6-3 【年齢別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



就業状況別

就業状況によって割合が最も高い項目に違いがみられる。

「個人経営の事業を営んでいる自営業主または家族従業員」は「どちらかといえば反対」の割合が他の項目より高い。「会社、団体、官公庁等に勤務している」及び「学生」は「反対」の割合が高い結果となっている。

「勤務・就労していない」人は「どちらともいえない」を多く回答している。

表 1-1 【就業状況別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見

[上段:実数、下段:%]

	賛成	とど 賛 い ち 成 え ら ば か	とど 反 い ち 対 え ら ば か	反 対	も ど い い え え ら ら な と	無 効 無 回 答	総 計
個人経営の事業を営んでいる自 営業主または家族従業員	1 1.6%	13 20.6%	18 28.6%	12 19.0%	9 14.3%	10 15.9%	63 100.0%
会社、団体、官公庁等に勤務し ている	12 2.3%	74 14.2%	117 22.5%	161 31.0%	130 25.0%	26 5.0%	520 100.0%
勤務・就労していない	11 3.0%	75 20.2%	79 21.2%	78 21.0%	95 25.5%	34 9.1%	372 100.0%
学生	3 8.8%	4 11.8%	5 14.7%	13 38.2%	7 20.6%	2 5.9%	34 100.0%
その他	1 1.2%	14 17.1%	12 14.6%	22 26.8%	24 29.3%	9 11.0%	82 100.0%
無回答・無効	0 0.0%	2 16.7%	3 25.0%	2 16.7%	3 25.0%	2 16.7%	12 100.0%
総計	28 2.6%	182 16.8%	234 21.6%	288 26.6%	268 24.7%	83 7.7%	1083 100.0%

※割合が最も高い項目に着色

雇用形態別

問 3 で「会社、団体、官公庁等に勤務している」と回答した人の中で、さらに雇用形態別に集計すると、雇用形態によって最も割合が高い項目に違いがみられる。

「正社員」「契約社員」「経営者、役員、監査役」の人は「反対」の割合が高い。

「派遣社員」や「日雇労働者」は「どちらかといえば反対」の割合が高い結果となっている。「アルバイト・パート」の人は「どちらともいえない」が最も高い。

表 1-2 【雇用形態別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見

[上段:実数、下段:%]

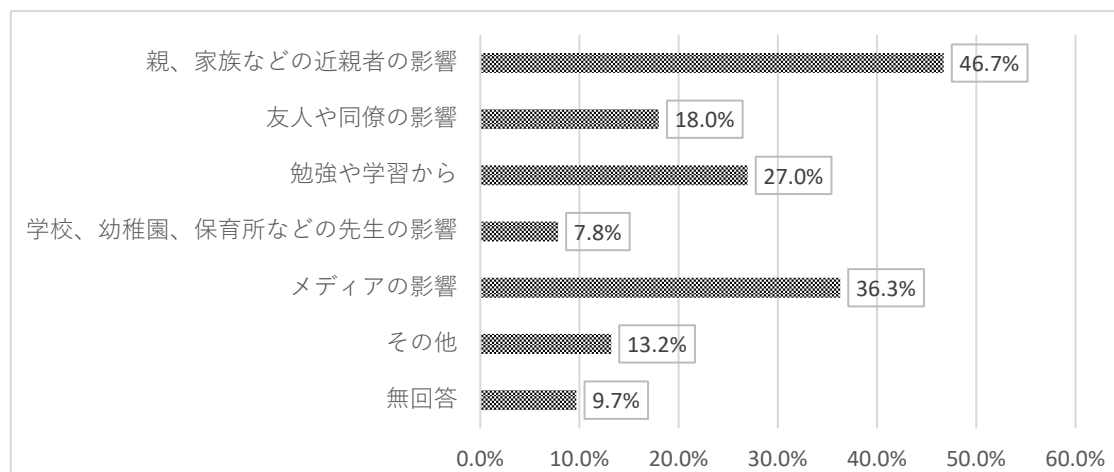
	賛成	どちらか 賛成 えらばか	どちらか 反対 えらばか	反対	どちら も い え ら な と	無効 無 回 答	総 計
正社員	5	36	59	89	76	10	275
	1.8%	13.1%	21.5%	32.4%	27.6%	3.6%	100.0%
契約社員	1	3	5	13	1	2	25
	4.0%	12.0%	20.0%	52.0%	4.0%	8.0%	100.0%
派遣社員	1	1	6	2	2	3	15
	6.7%	6.7%	40.0%	13.3%	13.3%	20.0%	100.0%
アルバイト・パート	3	25	36	42	45	5	156
	1.9%	16.0%	23.1%	26.9%	28.8%	3.2%	100.0%
日雇労働者	0	0	1	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
経営者、役員、監査役	1	5	7	8	4	3	28
	3.6%	17.9%	25.0%	28.6%	14.3%	10.7%	100.0%
その他	1	3	3	5	2	3	17
	5.9%	17.6%	17.6%	29.4%	11.8%	17.6%	100.0%
無回答・無効	0	1	0	2	0	0	3
	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	12	74	117	161	130	26	520
	2.3%	14.2%	22.5%	31.0%	25.0%	5.0%	100.0%

※割合が最も高い項目に着色

問 6 問 5 の回答について、それはどこで学んだり、教えられましたか。(あてはまるものすべてに○)

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見について、「親、家族などの近親者の影響」が最も多く、46.7%を占めている。次いで、「メディア(本、雑誌、テレビ、インターネットなど)の影響」が36.3%、「勉強や学習から」が27.0%となっている。

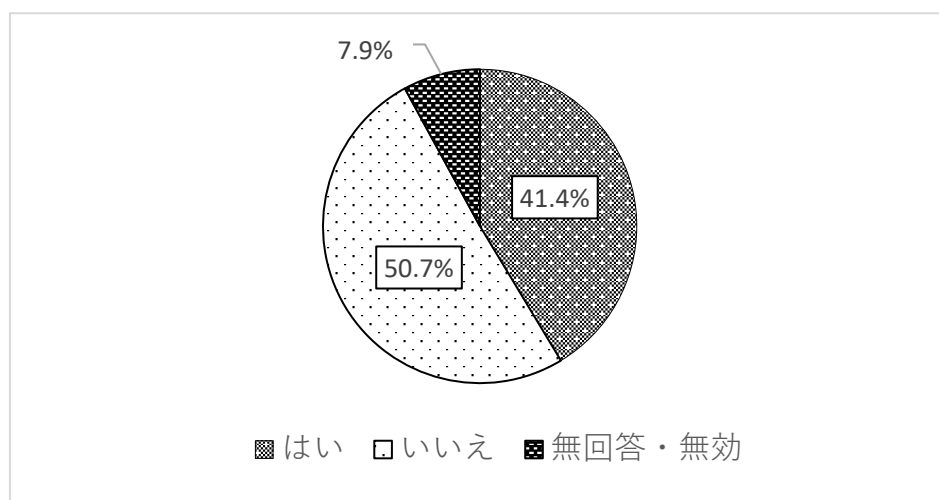
図 7 問 5 の回答について、どこで学んだり教えられたか(n=1,083)



問 7 あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのか学んだり、教えられたりしたことがありますか。

ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのか学んだり、教えられたりしたことがあるかどうか尋ねると、「はい」と答えた人が41.4%、「いいえ」と答えた人が50.7%となっている。

図 8-1 ジェンダー問題や男女共同参画を学んだり教えられたりした
機会の有無(n=1,083)



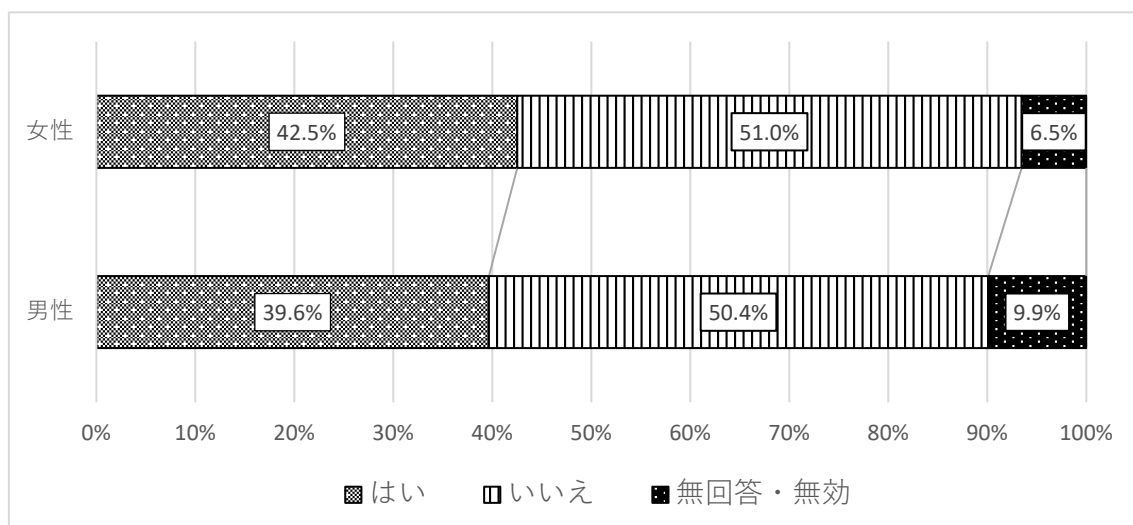
性別

性別によって割合に大きな差はみられない。ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのか学んだり、教えられたりしたことがあるかどうかについて、男女共に「いいえ」と答えた人が半数以上を占める結果となっている。

図 8-2 【性別】ジェンダー問題や男女共同参画を学んだり

教えられたりした機会の有無

(女性 n=628, 男性 n=454)



年齢別

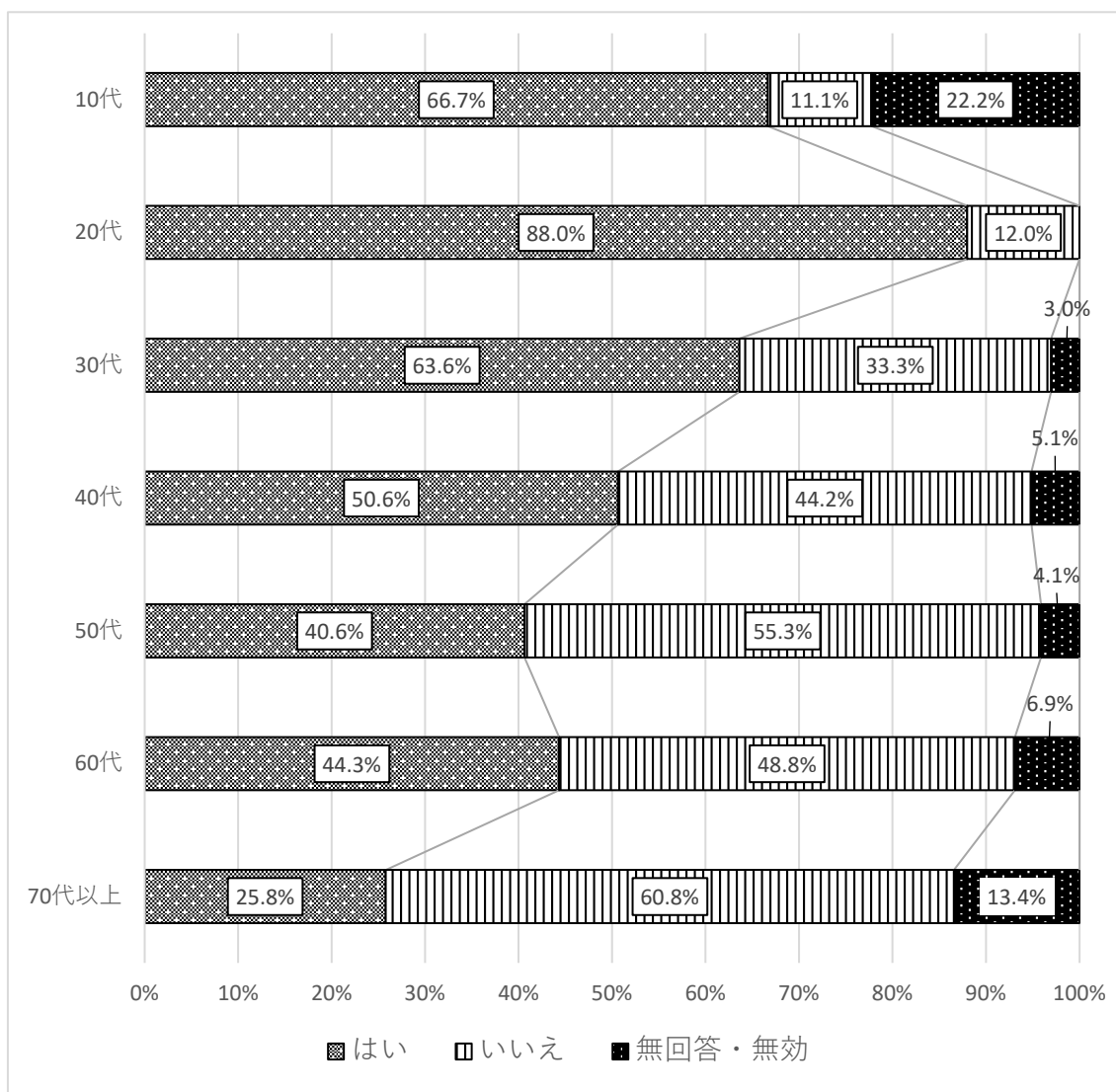
年齢別にみると、「はい」と答えた割合が「いいえ」と答えた割合より多かったのは、「10代」「20代」「30代」「40代」となっている。一方、「50代」「60代」「70代以上」では「いいえ」の割合の方が多く結果となっている。特に、「70代以上」は「いいえ」と答えた人が60.8%となり、最も「いいえ」の割合が多い。

ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのか学んだり、教えられたりしたことがあるかどうかについては、若年層ではそういった経験を有している割合が多く、年齢が上がるとその割合が少なくなる傾向がみられる。

図 8-3 【年齢別】ジェンダー問題や男女共同参画について

学んだり教えられたりした機会の有無

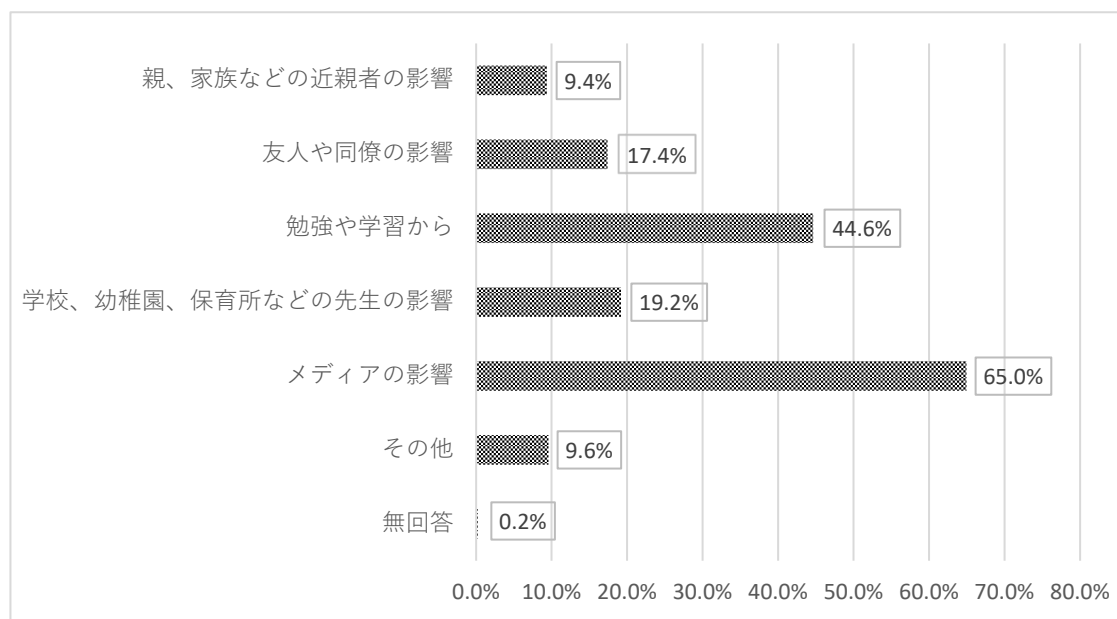
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



問 8 問 7 で、「1) はい」を選んだ方にお聞きます。それはどこで、学んだり、教えられましたか。
(あてはまるものすべてに○)

ジェンダー問題や男女共同参画について、どこで学んだり、教えられたりしたかを問うと、最も多かった項目は「メディア(本、雑誌、テレビ、インターネットなど)の影響」で 65.0%となっている。次いで、「勉強や学習から」が 44.6%、「学校、幼稚園、保育所などの先生の影響(習いごとなどの先生も含みます)」が 19.2%となっている。

図 9 ジェンダー問題や男女共同参画について
どこで学んだり、教えられたりしたか(n=448)



問 9 あなたは、仕事もしくは家庭生活において、性別にとらわれない暮らし方をしていると思いますか。

性別にとらわれない暮らし方をしているか尋ねると、46.1%の人が「特に意識したことがない」と回答している。「している」と答えた人は 20.3%、「していない」と答えた人は 26.0%となっている。

図 10 性別にとらわれない暮らし方をしているか (n=1,083)

